

第53回沖縄県振興審議会

日時：平成21年9月14日（月）

PM3:00～5:56

場所：沖縄県庁 6階第二会議室

1. 開会

○事務局(比嘉副参事) ただいまから第53回沖縄県振興審議会を開催します。

最初に定数状況の報告をいたします。

本審議会開会の要件である委員会の出席状況についてご報告申し上げます。

委員会の委員定数24名中、本日14名が出席しております。審議会規則9条より審議会の開会要件を満たしていることをご報告申し上げます。

次に配付しております資料の確認をいたします。

本日、配付している資料は、「沖縄21世紀ビジョン(仮称)中間とりまとめ(案)」冊子となっているものです。

それから、各委員からの意見として中間とりまとめ(案)への意見。山内委員及び仲本委員から配付されたものを配っております。配付資料は以上でございます。

続きまして、開会にあたりまして、知事のほうから一言ご挨拶申し上げます。

2. 知事あいさつ

○仲井真知事 審議会の先生方にはお忙しい中、お時間を何度も割いていただき、こういうビジョンの作成であるとか総点検等々、心から感謝いたします。

私も去年の9月にこのビジョン作成の審議をお願いして以来、ご尊顔を拝しておりませんので、久しぶりにビジョンの中間とりまとめがまとまりつつある中でお目にかかり、また、どういふご意見でご審議いただいているのか、ひとつ傍聴させていただきたいということできょうはまいりました。

また、会長にはお忙しい中、とりまとめ、その他、エネルギーを使っただいておりますことを心からお礼を申し上げたいと思います。

きょうは、長丁場のようなのですが、私も最後までお話を聞かせていただければと思っています。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

○事務局(比嘉副参事) 知事、ありがとうございました。

それでは、平会長、議事進行をよろしくお願いいたします。

○平会長 会長を仰せつかっております、琉球大学の平です。

本日はお集まりくださいまして、ありがとうございます。

ただいま知事のほうから会長という話がございましたが、実は総合部会の会長の富川先生方を中心に、過去12回それぞれの3、4時間にわたるといふ会議をなさって、本日、こういう「中間とりまとめ(案)」をいただきました。今後この案を審議会で議論していいものにしていきたいと思います。

それでは、座らせていただきます。

最初に、委員の交代がございましたので紹介させていただきます。

沖縄県商工会議所連合会常任理事、宮城光男委員が辞任され、新たに同職の仲田秀光委員が就任されました。また、沖縄県体育協会副会長の阿波連侑委員が辞任され、同職の當山宗仁委員が就任されております。

それでは、お二方、新しい委員の方にご挨拶を一言お願いいたします。それでは、仲田委員、お願いいたします。

○仲田委員 どうも皆様、初めまして。那覇商工会議所の専務理事をつとめております。6月24日で前専務の宮城光男氏が退任されまして、後任として職に就いております。沖縄振興のために少しでもお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。

○平会長 ありがとうございます。

続きまして、當山委員、お願いいたします。

○當山委員 県体育協会の副会長をしております當山でございます。

前任の阿波連副会長が退任をいたしましたので、選手交代をすることになりました。ひとつよろしくお願いいたします。

○平会長 ありがとうございます。

続きまして、今回が、今年度最初ということで議事に入る前に、まず21世紀ビジョンのねらい、あるいはビジョンと計画の関係などについて、委員の共通認識を図る観点から確認したいと思います。これにつきまして事務局のほうから説明をお願いいたします。

○事務局(川上部長) 事務局を統括しており企画部長の川上と申します。よろしくお願いいたします。

今回、久しぶりの振興審議会ということで、ビジョンについての基本的な考え方、それからビジョンの最終イメージ、そしてあとビジョンを今後、県のほうで作成をしていく計画等、簡単にご説明をしておきたいと思います。

まず、ビジョンについては、皆さんすでにご承知のこととは思いますが、将来

のあるべき沖縄の姿を描くということで、その実現に向けた取り組みの方向性等を明らかにする「基本構想」という位置づけにしております。

基本構想というようなことをございまして、将来像の実現に向けた基本方向や主要な戦略までをこの中で記述をしていく。

具体的な施策・事業等については、今後、ビジョンの実現に向けて作成をする新たな計画、主にこれは次年度以降になろうかと思っておりますけれども、その中で整理をしていくことになります。

ビジョンにつきましては、これまでも多くの県民から様々な意見をいただいております。こういう提言等を広く募りながら策定を進めているわけですが、特に「めざすべき将来像」についてお手元をご覧いただいていると思っておりますけれども、県民意見によって描いております。将来像の実現に向けた取り組みの基本方向というふうなものの中では、歴史・伝統・文化等の世界への発信、それから新たな産業の振興とか、それからアジア太平洋地域との交流ネットワークの構築、国際貢献拠点の形成であるとか、今後の沖縄振興につながるような戦略を盛り込んでおります。

ビジョンは、県民が望む沖縄の将来像を明らかにして、それを実現するためのものというふうな性格をもっておりますので、このことにつきましては、実はこれまで県としてはこういう形の作り方をやったことはございません。県として初めて策定をする性格のもので、これを今後は国・県、それから市町村における計画の策定、それから施策の展開において尊重されるべきものというふうな位置づけでつくってまいりたいというふうに思います。

ビジョンの最終イメージですけれども、5月には、本年度第1回の総合部会を開催いたしまして、その中で確認した点として、まずビジョンは一般県民が内容を容易に理解できるものでなければいけないということで、可能な限り簡潔な記述とするというふうな考え方を確認しています。

それから、またビジョンの中で目標値の設定は行わないと。今後策定する計画等の中で経済社会の姿などの数値目標を設定するというふうなことにしております。

それからあと、ビジョンの本体のボリュームなんですけれども、ちょっと具体的な話で申しわけないんですけれども。概ね30ページ程度ぐらいかなというふうなことを、あらあら考えておりますけれども、これを若干超えるような話があって、そのへんは構わないと思います。ただ、振計みたいには80ページとかいう形にはならないだろうというふうに考

えていただきたいと思います。

それからまた、本文策定にあたって分析を行った検討資料、それからデータ、県民意見の集約結果等については、これは附属資料として整理をしていきたいというふうに思います。

それから、ビジョンと計画との関係ですけれども、実は県のほうでは2年半後に切れる沖振法、それから沖振計等々の動きを踏まえて、現在、21世紀ビジョンの策定と並行して沖振興計画、それから沖縄振興特別措置法、復帰特別措置法等々の総点検を、今、実施しております。総点検の中では離島の振興、それから基地跡地の利用対策等々、重点課題の整理、それから各種の税制上、それから税外の特例措置の検証もしております。必要となる制度の創設等について、今後検討、そしてまた次の計画、制度に反映させていくように役立てたいと思います。

ビジョンの策定は、沖縄振興計画の総点検結果を踏まえながら、そのビジョンの実現に向けた新たな計画、それから枠組み等について検討していくと。そういう流れにしていきたいと考えております。以上でございます。

○平会長 どうもありがとうございました。

県民意見の集約ということですが、これについては前回のこの会でもいくつかの会の報告がございました。8月18日に私は実は夏休みをとって、渡嘉敷島に慶良間の海を楽しみに行ったんですが、県の事務局の皆さんは、渡嘉敷島の皆さんとこのビジョンについてのお話し合いということで本当にご苦労様ですが、こういうものは附属資料として巻末にも出てきますし、必要な箇所は審議会にも報告があると思います。

それでは、本日の中心であります沖縄21世紀ビジョン中間とりまとめ、これは富川先生が沖縄国際大学学長という激務の中で、長時間を使って書いてくださいましたので、とりまとめてくださいましたのでご報告をお願いいたします。

3. 沖縄21世紀ビジョン中間とりまとめ(案)説明

○富川副会長 総合部会の富川でございます。

これまで原案作成のために12回議論を続けてまいりました。これからご説明を申し上げたいんですが、資料はお手元にある「21世紀ビジョン(仮称)中間とりまとめ(案)」となっております。これが我々が今日まで議論した結果のビジョンのまとめとなっております。

そこできょうは、逐次説明も必要かと思いますが、これまでの経緯、議論の過程も含めましてご説明申し上げたいと思います。

まず、これは中間とりまとめということになってございますが、いまだ内容が申しわけないのですが完全になりきってないというところがございます。それでこの項目とか、ニュアンスで理解していただきたいと。大枠はこういう様式でいくかと思いますが、中身については、文章も急ぎ、いろんな意見をまとめたりして、なかなか後で読み返してみますと、ちょっとおかしいのもたくさんあったりして、文章とか細にわたってはこれから直していきますが、基本的に何が大事なものであるかということ念頭にきょうのご説明をしていきたいと思えます。

それから、最初に申し上げるべきだったことかもしれませんが、一部メディアに委員会、特に私と事務局が対立云々という報道もあったようですが、それは決してそういうことはございませんで、先ほど川上部長からも、この21世紀ビジョンというのは、従前のビジョンとは違ふと。つまり、振興開発計画も次元が違ふし、もっとも20年スパンですので、極めて意味の大きいものであるということで、忌憚のない意見を戦わせているわけでございまして、知のバトルと申しますか、そういう意気込みでやっておりますので、つついそういう表現になったかもしれませんが、やっぱりいろんな意見交換、忌憚のない意見交換をしないとなかなか議論の発酵もできませんし、いいビジョンのまとめもできないということでやっておりますので、いささかも対立はございませんで、申し上げておきたいと思えます。

それから、このビジョンのまとめにあたって、基本的に何を念頭に置くべきかということとは、先ほど川上部長からのご説明にあったのですが、20年先の2030年ということを見越した議論だけに、どういう形にすればよいか。県民意見も広くあまねく聴取しまして盛り込まれておりますが、それを羅列しただけでもなかなか難しいし、かといって単純な想像上の未来を描くだけでもなかなかビジョン足り得ない。じゃ何が必要かと申しますと、この審議委員会でも、高良倉吉委員からも発言がありましたように、先見性とか、戦略性を埋め込む必要があると。もっといい言葉で言えば魂を込める必要があると思っております。もうちょっとわかりやすく言いますと、長いスパンではありますが、将来、発芽するであろう要素を埋め込む。そして、現在、将来にわたって沖縄にとってマイナスの負の要素は今のうちに排除しておく。これが先見性、戦略性という形になるかと思えます。そういう作業が必要になってくると思えます。

先ほど申し上げましたように、これから計画されている基本計画とか実施計画に対して、上位規定の存在となっております。

それから、県民意見を背景にしておりますので、これから振興開発計画、次の振興開発計画はあるやなしや、いろいろ議論はあると思いますが、いずれにしても大所高所から沖縄のある意味で「道しるべ」になるべきであろうということで、議論の中で譲れない分が出てきたときには、毅然と議論を戦わすためにああいう誤解を招いた形になっているかもしれない。

しかし、今言ったように、これから発芽するであろう要素を見込んでマイナスのものは抜いていくということがありまして、あと、すでにお読みになっているかと思いますが、文章とか内容がまだたくさん不十分なところがありまして、今少し議論の発酵が必要かなというふうに思っております、きょうも後で審議委員の先生方の意見をぜひぜひいただきまして、すでにペーパーで出ている意見もございまして、それもぜひ今後取り入れていきたいと思っております。

何が戦略性かという議論がたくさん出てくるかと思うんですが、これは何名かにも確認したんですが、ちょっと見えにくいかと思いますが、確たるペーパーではありませんので、言葉で説明していきたいんですが、このペーパーにありますような「はじめに」から始まっていきまして、この目次に沿ってこれが本論になりますが、それをチェックするときに重要な項目をいくつかあるのではないかということで、これはすでに総合部会に出してあります。

1つは、もうちょっと具体的に言いますと、基地の過重負担の軽減、これは全国並にするべきではないか。地位協定も議論されておりますが、もうちょっと高い次元で言うと、安全保障というのは基地というハードパワーではなくて、名称はともかくとして、いろんなことを議論できる公的な機関。例えばできれば国連みたいな機関を持ってきて、そこでいろんな議論をするバッファー、緩衝地にしてそういうソフトパワーで安全保障に寄与するという方向性でやっておけば、20年間にその年々の県とか国でちゃんとこれを具体化する戦略が出てくるんじゃないか。つまり大枠のものを埋め込んでいく必要があるということがあります。

それから、振興開発計画は残念ながら今のところ自立に至っていないということがあります。確かに社会資本とか、最近では金融特区とか等々、結構、立地もありますが、残念ながら技術進歩とか移輸出力とか、経済の筋力・体力は依然として残念ながら弱いと。あと、ご承知のように1人当たりの県民所得、大学進学率、小中校の学力、失業率等々、かなり低位にある部分がありまして、そういったものは徹底的に改善していくというスタンスを

持つべきだろうということで入れてあります。この議論をするときの1つの物差しとして。

あと、自立経済を活用するためには、この文言にも入っていますが、ソフトパワーというのがありまして、ご承知のように最近いろんな経済論でも使われておりますが、元々はジョゼフ・ナイというハーバードの教授が使った言葉であります。沖縄には人々を惹きつける魅力があると。この魅力を基にしてどんどん発展すべきという、いわゆる従前の工業化理論と申しますか、工業化の**アポイル**によって、新しい視点から沖縄は発展すべきである。この沖縄のソフトパワーというのは、非常に大きなパワーを秘めているということで、これは東大の伊藤元重先生も似たようなニュアンスの発言をなさっておりますし、結構そういった論者が出てきております。ですから、これからはソフトパワーを使って、沖縄を発展途上国からさらに発展したポスト先進国にもっていける要素があるという論もありますので、そういった形でこれを利活用していくことによって発展のエンジンにしていこうというふうに考えております。それはビジョンにはないんですが、それを点検するときこういう要素があるということに基づいて議論するという意味での話であります。

あと、これも言わずもがなですが、「アジアのダイナミズムとの連結」。中国経済のGDPが日本を追い越して、もうアメリカも早晚追い越すという形になったときに、アジアの経済の推移が非常に高くなります。そうすると今まではなかなか発芽が難しかった要素が、どんどん展開していくと。

前回、総合部会で東委員に将来の沖縄の観光客の話をお聞かせしたんですが、軽く1,000万人は行くという話でありまして、そういう長いスパンでいったときに、激変するものをとらえておいて、そこに発芽するような要素を組み込む必要があるということで、アジアとのダイナミズム連結という形で入れております。

あともう1つは、大学院大学もございまして、知のネットワーク、そういったものを構築することによって将来発展するのではないかとということ。これもビジョンを読むときに1つの念頭に置くべきことではないかとということで入れております。

あと、これはもうすでにこのビジョンにも入っておりますが、沖縄の文化というのは、非常に人に優しいといえますか、人間主義に立脚してございまして、GDPは遅れたけど、マイナスの副産物として人間疎外とか、いろんな犯罪とかがございまして、そういうものではない本来の真の豊かさを実現する文化が沖縄にはあると。これが逆に言うと、沖縄に魅力があつてたくさん人が来るという説明になるかと思いますが、沖縄の伝統文化に非常にいいものがあるので、それを残す目標でやっていきたいと思います。単にエモーションを残し

ているわけではなくて、そこに本当の豊かさを実現するような要素が組み込まれて、それをもうちょっと大事にしていくことが必要だということで、これも点検の1つのポイントとして入れておきます。

あと、沖縄の自然保護のフロンティア。これもこの中に入っておりますが、観光の面でも、いろんな面でも沖縄が自然保護、現実にはかなり侵食されていると思うんですが、そういうものを標榜していくことによって、沖縄の発展にもつながるし、沖縄が率先して地球の自然保護にもつながるしということで、それはやっぱり沖縄の1つのキーワードにして、このビジョンの中を点検をするときの要素になるのではないかとということであります。

沖縄の人材とかの問題がありますが、これも議論の中で出てきたんですが、偏差値だけのはかる学力ではなくて、アジアに通用するような学力というものも議論すべきではないか。つまり点数だけではなくて問題解決能力とか、対応能力、適応能力というものを発揮していくような教育をすべきではないか。ですから、これからもっとアジアとか、そういうところに目を向けて、アジアには欧米に匹敵する、もしくはそれを凌駕するような研究者も大学もたくさんございますので、そういったことも含めて、いわゆるこれまでの従前の狭い考えの学力を向上するだけではなくて、もっと広い意味での人材である発掘、もしくは涵養が必要ではないかということも1つの要素として入れております。

あと、道州制についても事前の議論がたくさん出てきたんですが、これにはなかなか言葉として埋め込むのが弱いのですが、具体的にどういう展開をするかということは、まだ未知の部分があるわけですが、道州制のもつ要素、高い自由裁量権というのが付与され、地方分権が付与やされてくる。そうであれば制度として国と、まあ民主党は二階建てで県はないかもしれないという議論でまだわからないんですが、水平的な関係になると。そして、大事なことは高い自由裁量権をもって、そこで成長のエンジンに転化できる制度を生み出していくと。そういう目線でこのビジョンを点検する必要があるんじゃないかというふうに考えております。

あとは、これもすでに盛り込まれておりますが、離島というところは、ややもするとネガティブな要素もあるんですが、これまで総合部会の議論では離島は海洋政策の拠点にすべきという議論が出てきました。それは先ほど申し上げたように、アジアの経済的な推移が高くなってくると、那覇だけで拠点たりえない。与那国も石垣も宮古もそういう拠点を埋め込むことによって時間の経過とともに、アジアの経済の発展とともに、いろんな意味で可能性をもってくるのではないかとということで、海洋政策の拠点。つまり地下資源等々、

海洋資源等々もありますが、その利活用についてもいろいろ大枠で入れておけば、ほかからの確執を越えて利用も可能になるんじゃないかということで、いくつかそのビジョンを読みこなしていくときに1つの念頭におくこととして、私だけじゃなくて数名でこの5つの要素を念頭にということで入れておきました。

あとは、先ほども説明したとおりでございますが、このビジョンの位置づけというものは、これからくるであろう基本計画、その下にある実施計画の上位規定として位置づけられております。

これから国の振計がもし継続するのであれば、そこに対して沖縄県民の民意を背景に、沖縄はこういうふうにいきたいんですということで主張できる21世紀ビジョンであるということになるかと思えます。

これはまとめるときの1つの図で、3ページに図がございますが、先ほど説明した5つの項目ですね。5つの項目の下に具体的な項目ということでこういうふうに入れて、これは逐次1つずつ議論を重ねてまいりました。もちろんフローチャートになっているわけですから、それを文章化していったのがその次のほうに書かれました文章という形になってくるかと思えます。

それから、本題に入る前の時代潮流、一番目少子高齢化、人口減少社会の到来。これも沖縄は出生率が高くて人口が増えているわけですが、早晩、人口減少に転じていきます。そういったときにこの長いスパンでどういうふうな対応が必要かということで、課題として時代潮流としてこういう変化があるということを押さえておくということで入っております。

あと地球温暖化、これは世界的にグローバルな現象であります、自然がまだ残されている沖縄でも大変厳しい状況になっているということが1つの潮流としてとらえております。

先ほど来、申し上げておりますように、グローバル化の進展とアジアの経済発展ということで、沖縄のすぐ横に位置するアジア諸国が経済的に非常に推移が上がっていると。世界の経済の中でも経済の重心がアジアにシフトしていくということは多くの論客が語っておりますし、そういう状況を踏まえて沖縄がどうあるべきかということになるかと思えます。

あと特定課題の沖縄の特殊事情として基地問題を8ページに入れてございます。

9ページは、離島のほうも可能性があるということで、課題としてあるわけですが、こ

れをどういうふうに発展させるかというのもこのビジョンに組み込まなければいけないということになってくるかと思います。

あと、骨子は先ほど申し上げたように、「はじめに」から始まっていきまして、これは目次でございますので、1ページの前のほうの目次となりますので、そこをご覧になっていただければビジョンの中の中身が見えてくるかと思います。

これまで説明してきました特定課題。次、基本理念がありまして、5番目が我々ずっと議論してきたところございまして、めざすべき将来像。21世紀の沖縄はどうあるべきか。どうあらねばならないかという視点から5つの項目に網羅できるような形でまとめてあります。

(1) 沖縄らしい自然と歴史、伝統文化を大切に作る島ということになっております。

その次に項目ごとに前文がありまして、県民の意見、そして実現に向けた課題と取り組みの基本方向という形で枠組みは全部埋め込んでございます。

(2) 心豊かで安全・安心に暮らせる島。

(3) 希望と活力にあふれる豊かな島。

(4) 世界に開かれた交流と共生の島。

(5) 多様な能力を発揮し、未来を拓く島。

具体的に一番大事なところはこの5項目を通じてビジョンを描くという形になっております。

あとは、すでにお読みになった方もおられるかもしれませんが、具体的にはページで申し上げますと11ページ以降の説明になってきますので、私の説明はここからいくつか抜粋したにすぎませんので、といいますのは先ほど申し上げたように、これから文言の修正も含めてもうちょっと議論の発酵が必要だということで、ニュアンスで理解していただきたいことを申し上げたのですが、11ページ以降の説明は、あとで読んでいただければご理解していただけたと思います。

その次の6番目の将来像の実現に向けた戦略ということで、県土構造の再編と各圏域の方向性。それから、離島の振興。交通・情報通信ネットワークの展開ということで、将来像を実現するための戦略として入れ込んでございますが、ここは正直申し上げて一番最後ということもありまして、まだしっかり議論されておられません。これからまた埋め込むことも必要かと思いますが、ここはこれからのところであります。

めざすべき将来像につきまして、ページでいいますと、11ページから要点だけを申し上

げます。

ここには自然とか歴史とか伝統、文化という言葉が出てきておりますが、ぜひ理解していただきたい点は、沖縄の自然、歴史、文化、伝統も含めて、ここに発展する素材、可能性があるということでございます。「ソフトパワー」という言葉で呼ぶことができると思うんですが、このソフトパワーを展開していけば、先進国はさらに発展するということがございます。これはどこかに書かれていたと思いますが、かつて政府が1990年代に日本は失われた時代だということで、経済財政諮問委員会で前の東大の総長、小宮山先生が工学部長のときに諮問しまして、このプロジェクトチームが「動く日本」ということなんですが、その中に書かれているエキスは、眼前の不良債権問題とか不況問題は通常の経済政策手段でやるんだけど、抜本的に凋落した日本を立て直すためには、結論は非常に明解ですが、次元の高いニーズに研究成果を張り付けていけば、自ずと発展した国がポスト先進国に移行するというのがこの骨子でございます。

次元の高いニーズとは何かと申しますと、世界一のという言葉がつくんですが、世界一の健康長寿。世界一の安全・安心。世界一の快適環境。世界一の教育水準ということが先ほど申し上げたプロジェクトチームの報告書になってございます。そういったバックボーンもありまして、沖縄の自然、歴史、文化というものは非常に大きな可能性を秘めていると。それでもって展開すれば、沖縄はネガティブな要素もあるわけですが、発展できるだろうということで、この文章が書かれております。後で読んでいただいて、若干読みにくい点はちょっと修正してまいります、そういうことが埋め込まれているというふうに理解しております。

あと、単なる経済発展だけじゃなくて現代人が一番求めている、希求している安全・安心も含めて人の心の安全・安心も含めて、今、子供たちの問題とか、人間関係もかなり厳しくなってきました、ドライな社会になってきているわけですが、沖縄の伝統文化には人を大事にする真の豊かさにつながる要素があると。それを守るべきは守っていきましょうと。ですから単に自然とか文化を守るだけではなくて、住んでいる人たちが本当に豊かになるという素地があるので、それをもうちょっと考えていきましょうというのがこの将来像の中の一番目にあります。

あと、県民の声の中にもやっぱり沖縄の心というものを大事にすべきだということが出てきていますし、沖縄の自然ももっともっと大事にすべきという議論が出てきておりますので、これは枠の中に入っておりますが、後でご覧になっていただきたいと思っております。

取り組みについてもまだ十分な議論は尽くされていないんですが、基本的にはそういう自然を残していこうとか、文化を残すためにどうすればいいかということが書かれているかと思います。あと、具体的に自然を残すためにゾーニングとか、あるいはキャリングキャパシティというらしいんですが、環境収容能力。沖縄の持っている自然の持っている環境収容能力はいかほどかということで、これを越えますとオーバーキャパということで厳しくなるわけですが、そこに至らないように自然を守るために基本的にこういうモデルをつくっていこうと。環境共生循環型のモデルをつくっていこうということが盛り込まれております。

全部、逐次説明できないので、ニュアンスだけで説明しておりますので、ご理解ください。

次に2番目の項目です。心豊かで安全・安心に暮らせる島。これも昔は安全・安心というのは、従前のごとく当然のものであったわけですが、現代社会ではいろんな国々、地球規模で安全・安心というのが叫ばれるようになっておりまして、沖縄も安全・安心に暮らせる島ということを標榜していきたいということで、項目の中に入れております。

先ほど申し上げたように、もちろん沖縄の文化、伝統の中にもそういうがあるので、そういうものを大事にしていきたいと思いますということと、あと、安全・安心という中に基地問題がありましたものですから、文章に入っていますが、基地というのは民主党に変わっても、20年スパンでどうなるのかわからないところもあるわけですが、基本的に安全保障については、基地というハードパワーで貢献するのではなくて、さっき申し上げたように、沖縄はそういう話し合いと申しますか、バッファーにして、そういう話し合いの場を構築することによって、それによってソフトパワーという形で貢献していくということを標榜すべきではないかということで、議論の中に出てきましたのでこれを入れております。

あと、県民の声も平和についてたくさんの方があったかと思いますが、この枠の中にも入っているかと思いますが、沖縄の伝統的な習慣とか、特に沖縄の心という言葉がよく出てきましたので、それも大事にすべきであるということが多くの県民が生の声として出しております。

あと、実現に向けては、特に各論になってきますが、医療の問題とかも出てきますし、老後の社会保障の問題も出てきますが、かなり具体的なことになっていくわけですが、これからはずっとそういう問題はつきまとうので、沖縄としてもぜひぜひこれについては対応していくことが入っているかと思います。

健康長寿も残念ながら男子のほうが全県一から滑り落ちているわけですが、これからもそういう健康長寿というのは沖縄の発展にもつながるし、非常に大事な要素であるということで、これにも取り組むべきであるということが入ってきております。

これは基本的取り組みとして、まだ議論も確たるものが出てきてないんですが、やっぱり健康長寿沖縄とか、それを沖縄ブランドにもっていく。観光や健康食品等々で振興に資するというのが基本方向になっております。

あと、地域社会も先ほど申し上げたように、どんどんどん人間関係が希薄化しているので、それも潤いのある沖縄県にするために大事にしていこうということで課題となっております。沖縄のユイマールとか、コミュニティを再生すべしという議論も出てきております。

3番目の項目は希望と活力にあふれる豊かな島。この中で当然出てくるべきは、沖縄の自立経済を達成するためにはどういう方向でいくべきかということが出てくるかと思うんですが、これも各論はその世代・世代が課題として解決していくかと思うんですが、大きな課題として、やっぱり沖縄の可能性を利活用して発展させるべきである。先ほど申し上げたように、ソフトパワーで観光とかいろんな産業を発展させていくほうがいいと。これがさっき申し上げた「動く日本」にある論理で、先進国がさらに発展してポスト先進国にいくためにはそういうものが必要があるというのであれば、それをいろんな研究を通じて産業化していく必要があるという考えになってくるかと思えます。

あと、県民の声の中にも沖縄の心の豊かさがあるので、ぜひこれを守ってほしいとか、国への過度な依存から脱却すべきで、民間主体の経済にすべきということも声としてあがってきております。

あと、基本的に産業のイメージとしてはもちろん、かなりの長い期間観光が主要産業になると思われますので、観光を中心に展開する。そして、最近ITがかなり発展していて、ITは将来を見越すのが難しいのですが、ITとか、あと、この産業論の中で議論されたことは、それと並行して地場産業、農業というものをどうしていくかと。このバランスの取れた発展で進むべきである。非常に大きな課題ですが、沖縄に人が住んでいるわけで、島にも人が住んでいるわけですから、農業をどういうふう to 発展させていくかということも大きな課題になるかと思えます。

発展の1つの大きな要素として、これまで何度も申し上げたように、アジアの発展と展開させていくと。何とかリンクさせていくということが大きな大枠で示されておりまして、

この文言は異口同音で語られておりますが、ニュアンスはアジア経済とのリンクということになるかと思えます。

取り組みについてはアジア・ゲートウェイとか、空港の拡充とかそういうもの。これからどんどん経済発展に伴って観光も増えてくることになって、これに対する対応ということが挙げられております。

先ほど申し上げたように、沖縄の強みを生かして地場産業をどうするか。これも大きな課題だと。

各論については本当に難しいのがあるわけですが、大枠でこういうことを使ってこういう方向で発展させるという文章にもっていかないといけないと思うんですが、各論の部分がかなり出ているわけですが、これを基本的な方向の中で、先ほど来、繰り返した言葉が入っているかと思えます。

雇用の問題も、沖縄は失業率が高くて現状と課題の中に相当入ってきておりますが、これも各論を書くのは、20年先までの話ですので、こういう方向でいきたいとしか書けないんですが、ここは正直言ってなかなか弱い部分で、やはり産業の発展、産業の創造を通じて雇用を解消していくということが基本になるかと思えます。具体的にはワーキングシェアの話も出たのですが、そういう制度もこれから検討してもらいたいということになるかと思えます。

基地跡地利用の問題も、基地のアクションプログラムが出て、ロードマップは出ているのですが、跡地利用のロードマップが見えないということで、これもぜひ大きな課題ですので、国の責任の名のもとにおいて展開すべしであるということをおおきく入れていく必要があるんじゃないかと思っております。

4番目、世界に開かれた交流と共生の島ということで、これはとりわけ国際交流、あるいは離島の位置づけですね。那覇だけじゃなくて離島もかなり交流の拠点になり得るということで、そういうアジアとの連結とか、そういうことが基本に盛り込まれております。

あと、もう1つ議論に出てきたことは、「自由な交流を基本としつつも、県民の利益を損なうような自由化にはローカルルールを課し、自由と制御バランスの下、県民の厚生と地球益の最大化と両立を目指す」ということで、ちょっと文章としてもぎこちないんですが、後で直しますけど、言わんとするところは、完全に自由化すると小さい沖縄がぶっ飛びする可能性もあるので、そこについては歯止めをかけておく必要があるんじゃないかと。どういう制御の方法があるかについては、具体的なことについてはその年々の政策の課題に

なるかと思いますが、サブプライムローンみたいに世界的な大きな波がきたときに、また、こないとも限らないわけですから、そういうことについての基本的な姿勢を組み込んでいく必要があるということで、こういう文章にしております。

あと、先ほど申し上げたように、国連機関等々の世界的な機関を沖縄に持ってきて、それを紛争とかという形の機関にして、基地問題に関してもこういう形で貢献すべきではないかという意見が盛り込まれているかと思いますが。

最後に多様な能力を発揮し、未来を拓く島ということで、島ということ言葉が出てきておりまして、これは沖縄本島も島であります。先ほどの交流するときの海洋政策の拠点ということもありましたけど、やはり島というところが発展するためには、かつての琉球の時代もそうだったんですが、外との関係性を構築する必要があります。外との関係性というのはネットワークですので、そういう知のネットワークを沖縄で展開して行って、いろんな世界水準の知の拠点を形成して、沖縄でもグローバルスタンダードな知的水準を具備した人材の育成を図るべきであるということが出てきました。これはこうありたいという沖縄ですので、具体的な戦略については次の段階がありますが、そういう方向にもっていきたいということで一応文言として入っているかと思いますが。

あとは学力問題もあるんですが、先ほど申し上げたように、日本という枠組みの学力で図るんじゃなくて本当に現実的にアジアで通用する人材を輩出しなければいけない。どうしても東京とか、沖縄県外で決めていると失業の解消は難しいんですが、何度も申し上げているように、すぐ横にあるアジアが相当推移が上がってきていますので、10年、20年スパンの未来であれば、沖縄の人材も縦横無尽にアジアで展開できるような素質、素養をつけるべきではないかということ盛り込むべきであるということでこういう形で入れてあります。

ちょっとはしょった説明で大変恐縮ではありましたが、若干時間オーバーしましたけど、詳しいことにつきましては、本文をご覧になればと思いますので、そこを参照にさせていただきたいと思います。

ただし、最初に申し上げましたように、この文章も含めてまだまだこれから直していかなければいけない部分もあるわけですが、きょうもすでにペーパーでご提言いただきましたし、いくつかの質問もいただいておりますので、残された時間で忌憚のないご意見を賜れば、ぜひぜひ審議委員の先生方のご意見もこのビジョンに落とし込んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

○平会長 どうも富川先生、ありがとうございました。

私たち審議会の予定からいきますと、デューティーとしまして、知事への答申というのは11月に行うということで、それほど時間はございません。しかし、総合部会もあと1回か2回開かれるということで、審議会を中心に連帯して11月までには答申できるような内容にしていくという努力をしたいと思います。

先ほど紹介がありましたが、せっかく文章でいただいておりますので、山内委員のほうから手短かに説明していただけますか。

4. 意見交換

○山内委員 それでは、私から出ささせていただきました意見について追加の説明を加えさせていただきますと思います。

私は申し遅れましたが、沖縄県社会福祉協議会の事務局長でありますので、民間の社会福祉事業従事者ということで、この場にいるんだろうなというふうなところから、福祉の部門についていくつか意見を出させていただきました。

その前に全体的にこのビジョン、9月9日でありましたが、そちらを拝見させていただきました、「少子高齢化」というのが最初にすぐ出てくるものですから、ちょっとそこに引きずられているのか、障がい者関係への言及というものが少し物足りないなというのがございました。

地域づくりについても、もうちょっと具体的に盛り込んでいったほうがいいんじゃないかというところからいくつか意見をいただいたんですが、お手元に2枚綴りで8つの項目で修正と追加の意見を出ささせていただきましたところですが、この中で5点ほどはすでに修正されておりますので、ただ修正されてない3つの点について少し説明を加えさせていただきますと思います。

私のペーパーでいきますと、1枚目の(4)、18ページ、19行目というのは9月9日案でありましたので、ちょっと行数が変わっているかもしれません。本日のビジョン、中間とりまとめ(案)でも18ページになっております。中間あたり、括弧で将来像へ実現に向けた取り組みの基本方向があります。こちらは安全・安心な暮らしの項目の中の基本方向であります。私が書きましたのは、修正案として、この中の2段落目、「また、保健・医療・福祉」とありますが、その中で「疾病や要介護状態、心身の障がい等によって当事者・家族等の生活が損なわれることのないよう」というふうな文言を加えてはどうかということでございます。

その理由といたしましては、その下にも書きましたが、疾病、介護ということは、だれもがライフステージの中で常に不安を抱えているものだと。しかしながら、こちらの段落といたしますか、塊と言えは上のほうで子育て、保育というのが強調されていますが、介護ですとか疾病などについては、ちょっと言及が弱いのではないかと。この保健・医療・福祉の中に含まれているといえは含まれているんだらうとは思いますが、イメージをクリアにするためにもそこを加えてはいかがかというふうな提案です。

続きまして、隣の19ページで、こちらは地域社会の項目です。現状と課題とか、基本方向であります、19ページの下に、「さらに、エコツアー……」云々の段落がありますが、その上に以下の文章を加えてはどうかというのが私の提案の意見の2枚目、(5)の追加分があります。

その前にここの基本方向で1つ目の段落から、地域づくりの中でユイマールですとか、地域の伝統行事の継承でコミュニティの再生を図る云々があるのですが、もう少し住民の支え合い、今、「ご近所の底力」などが流行語みたいな感じですけど、そういうふうな地域づくりの中で住民同士の相互の支え合いというものをもっと今後のビジョンの中ではきちんと位置づける必要があるんじゃないかということです。具体的にはこちらにありますように、「年齢や障がいの有無などにかかわらず、だれもが自分らしく尊厳と希望を持って心豊かに暮らせるよう、地域における支え合いの仕組みの構築を進める」としてありますが、支え合う仕組みというものをしっかりと位置づけていただきたいという意見でございます。

最後に21ページに「県民が描く20年後の姿」ということで、県民意見の部分ですが、ここは修正はきかないのでしょうか。ほかのところでも盛り込んでもいいかと思いますが、NPOの問題をこれからの社会の発展を考えていく上で、これは欠かせない要素だらうと。これまでは行政や企業というものが社会発展の大きな牽引になってきたわけですが、住民活動というものは、以前はボランティア活動ということで社会奉仕の小さな活動というのをイメージされていたんですが、今では県内でも300を超えるでしょう法人格を有しているNPOが文化ですとか、教育、福祉、国際交流、社会のあらゆる場面において非常に自発的な活動を展開しているわけです。そういう社会貢献活動に対する期待というものをぜひこのビジョンの中に盛り込んでいく必要があるだらうということで、こちらに書きましたように、環境、福祉、文化等、地域社会あらゆる場面においてNPO等による非営利な広域活動が活発に取り組みられ、行政のパートナーとして重要な役割を担っているということで文書を追加してはどうかという意見でございます。以上です。

○平会長 ありがとうございます。

それでは、富川先生。

○富川副会長 大変貴重なコメントありがとうございました。

ご指摘の点は、また総合部会で引き受けて文言の修正も含めて変えていきたいと思えます。

基本的には先ほど申し上げたように、非常にかなり急いでつくったために文章の逐一の点検はまだ時間的な制約によってやっております。ですから、いずれ直していきたいと思えます。

2枚目の19ページのところなのですが、おっしゃるとおりで社会的弱者の配慮と思うんですが、支え合いの仕組みというのは16ページの全文の中に、下から2番目のほうに「ユイマールモデルを次世代へ継承し、さらに昇華することで」この「絆、地域社会のつながり、さらに強固となり……」云々とありまして、そこに「共助、共創型の考え方が導入され、地域社会の再生となる」として、考えとしてはおっしゃること議論します。ただ、ご指摘のページに載っていないというのは、これは「全文」、そして「県民の声」、そして「基本的方向」ということで、このへんの整理もまだできてないものですから、ご提案の趣旨は重々わかりますので、それに沿った形で修正させていただきたいと思えますので、よろしくご理解賜りたいと思えます。どうもご提言ありがとうございました。

○平会長 ありがとうございます。

私どものコメントとしましても、このようなビジョン、沖縄をどうするかというものについては、住民参加というか、ボランティアというか、これが非常に重要で、実際にはこの次のものに書き込めばいいのかもしれませんが、この段階でも、そのへん強調していただけるといいと思うんですけれど。

○富川副会長 あと1点。コミュニティの件は、これから道州制へ移行したときもコミュニティの役割がかなり各政党のマニフェストにも出たんですが、我々議論した中では、沖縄の文化の中に相互扶助とか、そういう役割があつて、それがどんどんどんどん削られてきているので、それを単純に時間軸を元に戻すことは難しいので、これはNPOでそういう機能をぜひ付加して行ってやっていきたいということで、NPOの働きについてはこれから非常に大きくなるだろうということは理解しております。表現の仕方については、ご指摘の提案を基に、また、直していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○平会長 それでは、もう1つは仲本委員のコメントでございますが、すみません、手

短にお願いします。時間があるようでないものですから。

○仲本委員 仲本でございます。

ちょっと意見をメモでつくらせていただいております。

今回のビジョンの中間とりまとめにおきましても、前回の3月に私はこの審議会のほうで環境と資源ということでメモをつくらせていただきまして、発言させていただきました。その中で復帰40年で様々な開発行為、豊かな生活への対価として失った環境、特に干潟や藻場やサンゴとか、白砂青松のそういった風景、そういったものを今回の視点の変更によって取り戻す取り組みをぜひ書いていただきたいというご要望をさせていただいております。

それにつきましても、今回中間とりまとめの中にいろんなところにちりばめていただきました。どうもありがとうございます。

ちょっと全般的な意見として僭越ながらいつまんで感じているところをご説明したいと思います。

全分野におきまして記述されているような印象がございまして、大きく方針や視点が変わる事項、それから大きな柱となる施策、目玉事業というのを強調して特化して記述していただけないかというふうに思います。

事務局のほうから、先ほど川上部長のほうからもご説明がありましたけれども、県民の方が広く読むということでもございましたので、やはり20、30ページぐらいの本文に後ろのほうの別添の付属に詳細な内容を書くと、事業の列挙を行うというスタイルのほうが非常に使いやすいビジョンになるのではないかと思います。

あと、3つ目のボツに書いておりますのは、前段の部分と、それから将来像の部分につきましても、やはり同じ表現内容が何度も重複しているような印象がございまして。抽象的な表現も非常に多くて、読ませていただいて具体的にどうしていいのかというのが私自身もわからないという部分も多々ございますので、可能な限り、より具体的な重要な施策とものを絞り出すような形で記述していただければと思います。

将来像のほうの表題自体も非常に漠と「心豊かで」とかそういう形になっておりますので、非常に抽象的で範囲が広いと思いますけれども、記述する内容については具体的に書く内容の課題、テーマを絞って記述していけばいいのではないかと思います。

それから、基本理念とか、そのあたりまでに今回のビジョンの最重要事項や考え方、先ほど富川総合部会長のほうからのご説明があった重要項目について、やはり冒頭で何らか

の形できっちりと位置づけて記述したほうがいいのではないかと考えております。

それから、時代の潮流のほうの大きな項目でございますけれども、時代の潮流自体、本文に直接関係するものであれば、その本文のまぐら的な形で入れればいいと思いますし、現在の形で例えば人口構造の予想が書いておりますけれども、ビジョン自体2030年を想定しておりますので、ほぼピークの状態の中での像というのを描いているような状況もございますので、後ろのほうでこれを引きずる部分というのも、おそらく本体としてはそれほど、大きい部分はあるかもしれませんが、参考的なところのほうでもいいのかもしれないと。

それから、環境問題、グローバル化の記述も、本文に施策と連携して明示する必要があるものに限定した形で、この本文の前に書くような形で書いたほうがいいのではないかとという意見でございます。

それから「特定課題」のほうでございますけれども、先ほど総合部会長がご説明していただいた重要な施策をより浮かび上がらせるような特定課題に限定した形で、客観的な記述をぜひしていただきたいと思います。

この中で総点検の話とか、いろいろとまた別で検討されているという話もございますけれども、やはりビジョンをする前の前提条件の1つだというふうに私も思いますので、復帰後の振興策のよい面、それから悪い面、それから反省する事項というのをやっぱり具体的に書いた上でのビジョンというふうにしたほうがいいのではないかとと思います。

それから「基地の問題」というのは避けて通れない問題でございますが、単に基地自体の制約、それから過重な負担という話だけをとらえたという形ではなくて、現在の経済面の依存状況というのも現在あるわけですから、軍用地代の問題であるとか、軍雇用の関係の話だとか、それから外人住宅を民間でやられているという現実もあるわけですから、そことの兼ね合いの中で客観的に書いて、それで返還に向けての課題を明確にしたほうが私はいいいビジョンになるのではないかとと思います。

それから、2枚目でございます。

2枚目のほうで離島の記述が何箇所かにわたってきております。私は離島のマイナスの話ではなくて、課題としてのとらえ方というよりも強みとして、沖縄本島も含めて島とかサンゴとか、そういったものの領土という面の話も含めて、公益的機能とか、潜在価値、役割を強調して強みとしてのビジョンとしての位置づけで、基本理念とか、将来像に書くべきではないかというふうに、決して離島とか島というのが負担になるという話ではない

という切り口の記述をぜひ望みたいと思います。

それから、「基本理念」のほうが、前段、それから後段の記述に比べて内容が非常に意図的に軽くしていると思うんですけども、せっかくなので、ビジョンの基本理念ですから、こちらにきっちりと一番重要な考え方と、それから進めていく方向性なりを書いたほうがいいのではないかと考えております。

それから、「目指すべき将来像」という形で具体的に5つのテーマで書いておりますけれども、抽象的な表現も、それから重複した記述というのが各所あると思いますので、やはり記述する内容をある程度絞って重要な施策を具体的に記述していただきたいと思います。

例えばということで、心豊かで安全・安心に暮らせる島という話の中で、違う切り口でなっていたんですけども、やっぱり健康長寿社会をもう1回復興させる話だとか、島しょ県としての安全・安心の話はどうとか。また、こういった安心・安全に暮らせる島だったら外（県外、外国）から人がくるのではないとか。そういった切り口で書けるのではないかと思います。

それから、「希望と活力にあふれる豊かな島」というところには、できれば経済面の施策に特化したような記述のほうがよろしいのではないかと思います。特にしばらくは観光産業というのが大きなウエートを占めるというご説明もございましたし、そういったものについて具体的に方向性なりを書いていただければと考えております。

それから「世界に開かれた交流と共生の島」というところに、ほかのところで「21世紀の万国津梁」といくつか書いてあったんですが、どちらかという後ろのほうの「世界に開かれた交流」という切り口の中に「21世紀の万国津梁」であるとか、そういったものを入れていただければというふうに思います。

ちょっと細かいテーマ、後ほどまたメモを添付させていただきます。以上です。

○平会長 ありがとうございます。

今回は富川先生のコメントは、皆さんの意見を聞いてからお願いしたいと思います。

○富川副会長 わかりました。

○平会長 せっかくの審議会で、委員の皆さんの意見を聞くのがこの会の目的でございます。全体どこでもいいというのは議論が進まないと思いますので、3つに分けて議論をしていきたいと思います。

最初は、1ページから10ページ目の「初めに」から「基本理念」までの問題。その次が11ページから31ページまで「目指すべき将来像」そして、最後に「将来像の実現に向けた戦

略」ということです。

さて、今、最初に申し上げました1ページから10ページまでに関連して意見を述べていただきたいと思います。挙手をしていただければと思います。いかがでしょう。

今、仲本さんのほうからも基本理念のほうですか。これをもう少し書き込むべきではないかという意見もございました。皆さんいかがでしょう。自由な意見でお願いいたします。いかがですか。お願いします。

○早田委員 早田と申します。

私、沖縄県名護市の出身なんですけれども、20年ほど海外で生活をしてまして、去年帰国して、沖縄県のビジョンのこの企画に公募した者なんですけれども、「ビジョン」という言葉自体に何かすごく普段の生活とはちょっと遠いという感じがしてならないんです。夢の島とか、こうありたいという感じの、何かもっと近づける表現なりがほしいなというのがあるのと。あと、いろいろなことが、これも、これも、これも、これもと5つ目指すべき将来像というのを挙げてはいるんですけれども、それはそれですごいなとは思いますが、もっとちゃんとどれを優先するとか、こうあるべき、じゃ、そのためにはこういう、こういう、こういうというのがほしいなというのが私の今までの見ていて、何かをしたいという、沖縄をこうしたいというのが感じられないんですね。全体ではなくて、官僚的なことでビジョンを出しているような感じがしてしょうがないんですよ。もっと私たちの島、私たちの沖縄県、だからこういう夢の島、こういう島というんですか、何かそういう、もっとみんながついてうわーっとやっついてこうという感じがほしいなという気がしてしょうがないんですけれども。すみません、あまりわかってないのにこういう意見を言いました。

○富川副会長 大事なところで、大変貴重な意見ありがとうございました。

1つ、この「ビジョン」という意味は、私は英語の本来のオリジナルの意味はわからないですけれども、国とか各省庁もみんな使っておりまして、どういう意味で使っているかということをちょっと申し上げます。

これまでも「振興計画」とか「振興開発計画」はあったんですが、これが10年スパンでして、特に最近不確定の要素がたくさん出てきまして、リーマンブラザーズの破綻とか、そういうのがどんだんだんだんだ社会が激変してくると、過去の踏襲では予測不可能になってきているんですよ。到底この当たる確率が低くなっている。そうであれば、この激変の時代においてはどういう手法でやるべきかとなると、とにかく大きく揺れ動いていたにして

も、北斗星みたいにあるべきものを求めておいて、もし現実のベクトルが違うのであればそれを修正するという。

ですから、それはかなり誤解が多いんですけども、具体的な政策ではないんです。政策は20年の間に県とか国がその課題として、そこから受け止めたものをやるのが具体的な政策であって。

確かに、最初の議論で我々もこういう具体的なことを書くべきとやったんですが、具体的なことを書くというよりは、むしろ10年スパン、20年スパンでこれから起こるであろう計画とかいろいろなものに対して、言葉はちょっと難しいんですが、高所対処と言いまして、さっき言ったように北斗星みたいな、南十字星みたいな形で非常にプライオリティの高いものを埋め込んでやると。

もう1つは、さっき申し上げたように、20年間で発芽するものを埋め込んでいく。ですから、かなり現実的な政策と遊離することはおっしゃるとおりなんですけど、これは否めない。だけど、だからといって具体的に書いていくと予測では必ずひっくり返ります。そことの兼ね合いですね。だから、ぜひご理解いただきたいんです。おっしゃることは重々わかります。

○平会長 実は私も科学技術・学術審議会というのがございまして、その10年計画というのを5年ほど前に、そのときの審議会の委員長としてやってきたんですが、その中に出てくるのは非常に具体的なことがあって、今見ると、例えば「洋上の風力発電」だとかいろいろなプロジェクトが新聞等で見ると実現されているんです。

というふうなものが少し欠けているのかなと思ったんですが、それは今富川先生もおっしゃったように、ここのビジョンというのは、例えば今早田さんがおっしゃったような例えば「緑豊かな島」とかというのは当然その1つの中にこれも書いてありますけれども、それを具体的にどうするかというものについては、3ページのこの絵の中でいくと基本計画とか実施計画なんですけど、そのへんについてはやっぱりとりまとめの要であります川上部長のほうからちょっとコメントしていただけますか。

○事務局(川上部長) 今言われる話は、冒頭そういうこともありまして、ビジョンとこの計画の違いの部分のご説明をしたわけなんですけれども。

これまで沖縄県は「振興計画」というふうなもので実はずっと計画をつくっておりました。これは言ってみれば、県の計画でもなくて国の計画という位置づけなんですけれども、この中で若干計画の目標、格差是正だとか、あるいはまた自立発展、そういう目標は設け

られているわけですがけれども、実際にその目標が達成された後のこの沖縄の社会はどうなっているんだという。それによって、実現される沖縄のイメージというふうなものはそれにはないわけです。

今回、我々がつくろうとしているのは、まさに、どういうふうな沖縄でありたいかというふうなものを、まず1つ作る。

先ほど富川先生もおっしゃっていましたが、北極星というのがある。20年後の沖縄はこういうふうになりたいなという様々な意見を県民の皆さんからいただいて、非常に雑多な様々な意見があるわけですがけれども、それをその5つの柱に集約をしてみる。そうしてみると、その県民が求める姿は概ねこういうふうな5つの方向かなというふうなところで、次にそれを実現するためにどういうふうな課題があるんだろうかと。それを解決するためにどういう基本的な方向があるんだろう。そこまでを描こうということです。

あと、では、それを具体的にどういう個別のプロジェクトなり、あるいは施策をやっていくか、事業をやっていくか。それは次年度からおそらくやろうかと思えますけれども、その基本計画の中で書いていくと。そういうふうな段取りになろうかと思えます。

○平会長 どうもありがとうございます。

いかがでしょうか。どうぞ。

○饒波委員 一般公募の饒波です。

ビジョンと計画はちょっと難しいんですけど、これはもしかしたら計画の中に入ってしまいかもしれませんが、次の将来像というところで言おうと思ったんですけど、この資料を一読させていただいて、道州制の問題が落ちているなと思ったんです。それは、先ほど富川副会長からお話があってフォローアップされていました。

別に道州制にこだわるわけではないんですけど、これを読んで、あえて日本と言わせていただきますけれども、沖縄と東京、中央との2030年にどういう形になっているのか。今と同じ形なのか、少し違うのか、全然違うのかというのがちょっと見えないなというのがありまして、そちらのほうも少し盛り込んだほうが。要するに、我々沖縄と中央がどういう関係になっているのか。今と同じなのかという関係がわかるような、何か少し書いたほうがいいのではないかなと思いました。

○平会長 ちょっと質問の意味があれなんですけれども、中央というのは日本政府というか、それとの関係ということですか。

○饒波委員 簡単に言えば、沖縄と本土というか。

○平会長　　もっと広くですか。

○饒波委員　　そうですね。例えば沖縄、具体的に言いますと、振興計画というのが沖縄は特別にありまして、高率補助でやっていますよね。今後そういうのをずっと続けていくのかどうか。それとも、税源はこちらにもらって自分たちでやっていくのかというそういうシステム、仕組みをこれから変えていくのも含む違いというか、そういう。

今と変わらない関係なのか。中央の東京と沖縄というのが、今と変わらないのか、それとも少し違うのか。あるいはかなりのちょっと独立性を持ってやっているのかどうかというのが少し見えてこないなと思ったんですけども。

○平会長　　富川先生、どうぞ。

○富川副会長　　大事なところで、これも1分だけ申し上げます。

おっしゃることは大変よくわかるので、道州制がどういう制度になるかは政権も変わってよく見えないところで、2階建て、3階建ての議論もありますけれども、それは制度論でありまして、基本的には盛り込むべきことは水平な関係。国とか県があったにしても、なかったにしても、既存自治体と水平な関係で民主的な組織であるということ、例えば書くのであればそういう書き方が一番いいと。

そして、これ本音の議論ですけど、本音の議論が書けない部分があったんですけど、あえて申し上げます。日本経済が凋落している中で、やっぱりウエートはアジアに行っている。例えば沖縄はある意味で、過去の歴史から見ても沖縄であり沖縄ではないという歴史的な関係性を持っているわけです。そういうことを土台にして、やっぱりいいところはアジアに向いていくということで文章として書きにくかったのですが、世界の経済の重心がアジアにいくのであれば、やっぱりこれからは沖縄の人材も含めてそこで活躍できるような場、そういう社会に移行していくという書き方しかできなかつたんですけど、制度論はわからないんですが、ただ、これから1つの沖縄にとって20年スパン、10年スパンで重要になるのは、アジアの経済。そこに組み込むような方向で、ひと足もふた足も踏み込んでいきたいというニュアンスを書いておけば、どういうふうな踏み込み方をするかというのはその時代時代にならないとわかりません。政権も変わるかもしれませんから。そういう書き方なんです。

ですから、大変悶々とするというのはよくわかるんですけども、具体的にどういうというのは、その時代時代が宿題として与えられて解決する問題だというふうに考えてください。ですから、我々としては今おっしゃりたいことも入れたつもりなんですけれども、

こうしたほうがいい、ああしたほうがいいという政策論と我々の理想論との兼ね合いがちよっと難しくてなかなか書けない部分もあるんですが、そんな感じです。

○平会長 どうぞ。

○饒波委員 そのアジアとのことについて、ちょっと関連したので一言言わせていただきますが、26ページに、なぜアジアと沖縄が組むのかということで、理由がいろいろと書いてあるんですけども、昔からおつき合っていたということ。

ただ、この文言がなかなかちよっと過激だなと思ったのは、「今時大戦で地上戦を経験し多くの県民が被害に遭った経験もアジアの各国と戦争体験という歴史性を共有しており」と書いて、その戦争で被害を被ったのを共有しておりという表現があるんですけども、これ意地悪い人が読んじゃうと、日本にこっぴどい目に遭わされたというのを地域で共有するというふう読み込む人がいて、それで沖縄とアジアはつながるんだよというような論理に持っていかれちゃうと、今我々がやろうとしていることがちよっと曲解されてしまうので、ちよっと過激な。別に言葉尻を捉えるわけではないんですけども、この考え方はちよっと危険かなと思ったので指摘しておきます。

○富川副会長 これも表現の問題はあるかと思います。言いたいことは、基地問題というのはハードではなくてやっぱり沖縄というところは、例えば板門店ではないですが、そういうふうな位置づけにしていくときに、アジアとどういうところがシェアできるかというときに、そういう部分も含めて歴史的な経緯も踏まえて、沖縄もそういう立場にあったからもっと平和についてくい込んだ考えができるから、沖縄をバッファーにしようというニュアンスなんです。

もちろん表現が過激であるとおっしゃるのであれば、これもまた考えざるを得ないんですが、意味はそういう意味で書いてあります。

○平会長 今の問題は、要するに沖縄もやっぱり日本の枠組みの中では加害者であったという、そういう事実は当然あると思います。

それから、最初に饒波さんが指摘された今の仕組みですね。振興計画等の仕組みで、事業計画等が全部政府によってつくられて、それを遂行していくので、私は専門でないから新聞等で読んでいるだけなんですけど、多くの事業を遂行したお金はほとんどがまた本土に環流するというODA的な構造があるなという警告をしている方も大勢いるので、今後のものについてはやはり沖縄県が、私たちが中心になって、こういうふうにしていきたいのでこういうふうなお金がほしいという形ができると少しは変わってくるかと思うんですが。

オブザーバーの知事にこんなことを聞くと大変ですが、何かございますか。一言だけ。

○仲井眞知事 ちょっと今の点ではなく、伺っていて、まさしくこのビジョンをつくる
ときの悩みですよ。今、早田さんが言われた全体が一緒になって、ある情熱を持ってわー
っと理念的であれ目標を持ってば一っといくかをつくればハッピーで、そこらへんがま
だバスケットでいろいろな意見をとりあえず入れてあるというあれです。ですから、これ
をもっと消化させてできると本当は一番いい。

僕らが日本復帰の、要するに37年前に何かあったああいうものにまだ昇華してないです
よね。ですから、そういうことが今の時代にもまた可能であればいいし、今まさにおっし
ゃったように、沖縄はこれまで政府の世話に随分なってきたと、僕も北海道から鹿児島
の皆さんに「随分お世話になりましたよ」という言い方をよくやって、現にここまでやってき
ました。課題とかいろいろな問題点はいろいろあるにしても、現にここまでやってきまし
た。感謝しますという言い方と併せて、これから当然日本国そのものでもあるし、もう少
しそこから道州制も踏まえて独立性の強い何か。

ある学者の先生はユナイテッド・キングダムじゃないけど、連合王国チックな姿形まで
考えたかどうかというようなお話も、意外にまっとうな先生方がおっしゃるようなことも
あって、それで先ほど饒波さんが言われたように、確かに共有という、いじめられたと
いう点が共通のあれになるかという、じゃ沖縄にそこまで立つ力とか実力において我々
は持っているのかという点から考えると、現実の世界はどこまでいってどこまでを目標に
して、どこまではまあまあそれぞれの時代と人々の考えに任せるかというところもあるわ
けで。

ただ、可能な限り今の、まだこれ審議していただいている段階ですから、制限はあまり
つけないで、ぐーっのご意見、今日伺っていて私も半分そういうあれもあるんです。ただ、
最後にまとめていくときは、今はあんまり考えずにもっともっと出していただいた
らどうかという気持ちがしますね。だから、私自身は答えは持ってないんです。富川先生
がご苦労しておられるんで、無限のいろいろな要求をバスケットの中で整理するのにご苦
労しておられる。私も今こんな感じです。

○平会長 ありがとうございます。

やっぱりご指摘のように、このビジョンを見て、これはみんなで頑張りましょうと意欲
を持てるように書き込んでいかなければいけないと思うんですが、それはこれからの短時
間の間で作業をしなければいけません。

それでは、ほかにいかがでしょうか。

○真栄田委員 全ページなんですか。

○平会長 今は10ページまでなんですけど。

仲田さん、お願いします。

○仲田委員 初めての参加でございまして、4、5日前に資料をもらいまして、ざっと読んで感じたことを10ページまで言いますと、10ページまでで非常に内容が重たくて読めないなど。行政経験はあるんですけども、それでもちょっと読みにくいと。

一番結論から言いますと、基本理念がどうも理念になっていないような表現の文章で、形式なんですけれども、宣言の最後で「沖縄21世紀ビジョンを策定する」という表現がちょっとやっぱり理念はそうではないだろうというまとめ方ですね。これが一番の印象で。

1ページからいきますと、真ん中ぐらいますがどうも「ビジョンの意義」ということの内容が数回繰り返されている。これは仲本さんの意見と一緒に、ちょっと私メモにはしてないんですけども、非常に読みにくい。

全体的な話と個別の話を織り交ぜながらページごとに感じたことを言いますと、1ページの下の方の4行目で、「観光需要等の民需への転換」。観光需要はもう転換ではなくてリーディング産業になっているので、ちょっとこの表現はどうか。「転換」ではないだろうというふうな気がしております。

それから、3ページの間とりまとめの概要というのがあるんですが、これが全体の文章として流れができてなくて、11ページの(1)から(5)までのいろいろな項目がありますよね。主題になっている、「めざすべき将来像」の(1)から(5)まで。これがこの前段の中でどう生きているのか、どう定義されたかがわからない。表の中には(1)から(5)まであるんですけども、文章の中にはそれがありませんよね。それがちょっと導入ができてないような気がします。

それから、時代潮流の(4)から(5)、(6)までですね。この表は仲本さんと同じ意見で別添資料という形でもいいんじゃないかな。そうすると、前書きとか前段部分がもうちょっと読みやすくなって、ボリュームがさらに小さくなるのではないかなというふうな印象を受けております。

ちょっと文章がわかりにくかったのがそういうことで、「県民議論の経緯」というのもこの位置づけの中でどういうふうな役割を担っているのか。このへんのほうに、めざすべき将来像の(1)から(5)までこういう形でという項目が入ってくればわかりやすいのかなとい

う感じがしました。個別の文章はちょっとわからないんですけども、全体の印象を述べさせていただきました。以上でございます。

○平会長 審議会としてまとめるときには、今のご意見等を参考にしていきたいと思えます。

ほかにいかがでしょう。

それでは、次の一番皆さんの関心があるのは目指すべき将来像というので、11ページから31ページまでだと思いますが、この範囲についてお願いいたします。

では、前田さん。

○前田委員 基本構想ということで、20年スパンあるいは10年スパンというような基本構想が実施計画によっては違ってくこともあるのでしょうか。沖縄県全体のこの構想を立ち上げていく場合に、やっぱり会長のほうからもございました、めざすべき将来像というのが県民の大変注目の的になると思うんです。一体、沖縄はどういう形をつくっていくんだろうということ、これが沖縄の将来の議論の的になると思えます。

そこにおきまして端的に申し上げますと、沖縄経済の問題や雇用の問題であります。復帰37年有余たって沖縄がこれまで失業率が他府県に比べて2倍高い。所得が下位であるが、そういう状況の中で、県民の雇用の確保という雇用創出というところが、少しこのビジョンの中で将来像として薄いんじゃないかなと。

確かに自然、文化、歴史。これは、沖縄の置かれている現状として保持しつつ、やっぱり生活と経済というのが県民の大きな関心のことだと思うんですよ。そういうことからいたしまして、いわば16ページあたり、そういう文言でいいのかどうか、中間のほうに「沖縄の人々はイチャリバチョーデー、ユイマールの代表される『沖縄の心』に支えられてきた地域社会を形成し、都市地域から離島まで安全で安心して豊かに暮らしている」というふうに言えるのかどうかというので、これが将来像として表現しているのが、現実は今豊かであるというふうに捉えていいのかどうかということも疑問を持った次第であります。

そういうことで、第1次産業にしても、あるいは観光産業にしても、ビジョンとして、沖縄の経済をもっと県民に知らずビジョンにしてほしいなというふうに考えます。そこがちょっと薄い。自然、文化、歴史。これはもうさっき申し上げましたように。この言葉は何回も出てくるわけですね。1つの理念としてならばいいんですが、それが何回も出てくるんだが、産業振興については、ちらっと出て終わっている。雇用創出にしても、ちらっとして終わっているというような感じがするわけです。

37年有余のいまだかつてこういう状況にあるのは、やっぱり県民の課題として、さらに沖縄振興策にしてもそうですよね。具体的に言うと、政府からこれだけのお金が投入されたのに、実際、県民の所得の向上になっていなければならないはずだが、その投入された資金の半分は逆流していつているという批判の声もあるわけですね。そういったことからして、将来の「雇用問題、経済問題」。経済があって初めて豊かな心につながっていくだろうと思うんです。

今の沖縄の若い人たち、一体沖縄はこのまま潰れていくのか。仕事がないという状況において、実施計画の中で組み込まれていくだろうと思うんですが、もっと強く訴えてビジョンとして挙げて行ってほしいなという感じをいたしました。

○平会長 ありがとうございます。この中では何回か指摘されているのは、島野菜の復興というか盛んにすること。離島等も利用してということなんですが、例えばこれも話したかもしれませんが、与那国島は観光客は来るんですが、野菜がないからみんな石垣から買ってこなければいけないと。今、琉大のほうでは、実現できるかどうか、そういう実験として野菜工場というので室内で1年中生鮮、いわゆる柔らかい野菜がとれるようにという研究も進んでおります。

それ以外にももちろん島野菜という特徴を生かしていく。そういう必要があるかと思うんですが、そのへんのことはこの中で農業の振興とか、漁業の振興というのは何回か書いてあるように思いましたが、それ以外にはどうでしょうか。

○前田委員 雇用創出についてという。

○平会長 若年層もそうしたいということなんですが、現実には非常にまだ実現というか、盛んにはなっていないと思います。

観光業ということもあって、東委員のほうからちょっと。

○東委員 沖縄経済同友会の東でございます。ここの名簿には観光委員長となっておりますけれども、観光委員長は6月に退任いたしましたので、普通の常任幹事でございますので、よろしくをお願いします。

先ほど富川先生のほうからも、私も総合部会にも参加して2030年の観光ということをお話したんですけども、この2030年を考えれば、貴重な自然が残り、固有の伝統文化があり、そして安全・安心、あとはキャバがあれば、別に沖縄だけではなくてどの地域でも1,000万人というのはもう来ていると思います。やはりそれぐらいアジアの人の交流というのは本当に盛んで、1,000万人の3泊というのは3,000万人泊ですけど、今でもハワイは6,300

万人泊ですから、ハワイの半分にもいかないというぐらいが、いわゆる2030年にもし1,000万人いったとしてもそういう状態です。ですから、数は別に。

私が何であえてそれを言うかという、別に沖縄だけではなくて、ビザとかが緩和されてアジア、中国、インド、そしてロシアを中心に経済力が発展したらもう幾らでも人は国境を越えて動くというのは、これはもういろいろなところで試算されておりますので、そういうふうになると思います。

私が言いたいのは、全体的に将来を予測するにあたり「激減する」とか「不確実性」という言葉がよく出てくるんですけども、その割には今出た東アジアまたは東南アジアが非常に経済力を伸ばしてきて、そこと共生することによって沖縄も発展していきましようという。こういうSWOTでいうとO（Opportunity・機会）の部分というのが結構出てきているような感じがするんですけども、先ほど知事からもありましたように、Tの部分（Threats・脅威）ですね。リスクの部分もきちっと並行して書いていかないと、リスクを共有することによって心を1つにして戦うというのは、何かちちょっと危ない感じもするんですけども、やはりこの2030年の取り巻くアジアの環境の脅威というものももう1つきちっと書いていったほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

どういうことかという、やはりそのままアジアで自由競争市場主義というグローバル化が進んでいけば、今もう既に沖縄の西海岸リゾートの大半は国際的なグローバルのファンドの持ち物になっているわけですよ。それが、アジアですとちょっと国家と結びついた巨大ファンドがありますから、そういったところが自由に売買できるというような状況になります。我々民間としては別に誰がオーナーになろうが、リゾートホテルに縄を結んで船で持って行けるわけではないので、我々民間企業としては別に問題ないんですけど、ただ、本当に景観のいい場所、いいリゾートがすべて外資になって、そして内部のいい場所は米軍基地が占めているというような状態で本当にいいのかという。そういうリスクみたいなものも書き込むというか、ビジョンの中に入れたほうがいいんじゃないかなと。

私が言いたいのは、やはり予見不能な、または予期せぬ、または無秩序な経済活動を排除するための沖縄型の持続可能な計画経済というか、または先手先手を打つような法整備とか制度設計みたいなもの。それから、異文化とかそういうことの共生と言ってますけど、今は100人のウチナンチュの中に何名いるかわかりませんが、1割に満たない外国の人たちと、それからまた本土から移住してきている人たち。ただ、それでもやっぱり景観の問題とか、建築の問題とかでトラブルが発生しているわけですよ。それを国境を越

えてどんどんどんどん外資が来るわけですから、これは受け入れるための異文化を理解して共生するための積極的な仕組みを構築していかないと、おそらくその沖縄の心もすべて失われてしまうんじゃないかなという気がします。

ですから、多国籍の人、異文化というのは受け入れないといけないというのはもう21世紀どこの国でも一緒だと思うんですけど、やはりそれを受け入れるための何らかの方策みたいなものの準備というのは、これはビジョンの中に落としていかないと、いや、ウチナーンチュはイチャリバチョーデーだから大丈夫ですよと。沖縄の人はもしかして差別しないかもしれないです。でも、歴史的には差別した事実もあると思うんですけど、でも、入ってきた人たちのほうがマジョリティーになった場合はどういうふうなことになるかわからないですよ。人数は少なくとも、資本的にはマジョリティーになる可能性というのは十分ありますので、そのへんのTの部分ですね。SWOTのTの部分はもう少し明確に予見。激変、不確実性というのがある、それがどういうことを意味しているかということは、やっぱり書き落としていると危機感を共有できるのかなという感じがしました。以上です。

○平会長 例えば、観光でもハワイ大学には観光学部があって、ハワイのそういう観光施設、ホテル等の上位というか経営、運営のほうにはハワイ大の卒業生が入っているということで、琉球大学の観光学科の卒業生もことし出たばかりなので大いに期待しているんですが、まだまだだと思います。

そういう面で、先ほど前田委員がおっしゃった働く場所、雇用の確保等についてもただ単に今のような職種だけではなくて、もっと高度なものがやれるように大学の使命はあると思いますけれども、そういうのも今後とも頑張っていかなければと思います。

ほかにかがでしょうか、このへんについて。

お願いします。

○當山委員 私は、県体育協会の副会長の當山です。よろしくお願いいたします。

初めての参加でして、多々不十分なところもあると思いますが、ご容赦願いたいというふうに思います。

「めざすべき将来像」をいろいろ読ませていただきましたけれども、全体的に見て「スポーツ」という言葉が30ページの1カ所しか出てこない。それはやはりこれからの観光産業にしましても、あるいは沖縄の文化にしましても、それから健康、長寿ですね。それから産業振興、雇用創出と労働力、それから国際交流・共生のいろいろな視点から見ても、スポーツはすべて共通する部分があると思うんですね。それがテーマの一番最後の5項目

の中に、教育の中に「スポーツ活動の機会を提供・充実、支援」という言葉の1カ所しか出てこないんですね。そういうことで、申し上げれば、豊かなスポーツ環境を沖縄のその特性というんですか、そういった点でもう少し説明の中につけ加えたいかがでしょうか。

そして、「スポーツアイランド沖縄」の実現を目指してというのがスポーツ振興基本計画の中にありまして、それと整合性をとりながら、やはりビジョンの中にスポーツというのはどう位置づければいいのかというふうに私は思っておりますが、少し言葉が少ないのではないかなというような感じがしてなりません。以上です。

○平会長 ありがとうございます。

富川先生は確か空手のほうですか。スポーツについて非常に理解があると思うんですが、それは伝統的なことということで。

もう既にいろいろなトライアスロンをはじめ多くの競技が行われているわけで。そういうスポーツについても、これは広く挙げればこの中で健康・長寿の中に入っているテーマだとは思いますが。

ありがとうございます。ほかにいかがでしょう。

先に玉栄先生のほうお願いします。

○玉栄委員 15ページの「国際的な環境モデル地域」のところについて、少し伺いをします。

私は、実は前回の3月の委員会するときにもお話しましたが、環境とか新エネルギーに特化して作文をしてこの場にいるわけでございますけれども、そこに特化して質問したいと思います。

記録していただいているんですけども、私は6月26日に琉球新報の論壇に投稿しました。経済産業省の新エネルギー100選に沖縄から5事例が選ばれたということをつきかきにして、経済産業省とNEDOのシンポジウムが沖縄で開かれました。そのときに副知事が参加されました。そのときに、野中ともよさんと東京工業大学の柏木孝夫先生が、沖縄の新エネルギーに対して提言されました。大変すばらしいシンポジウムでありました。

それを受けて私は、1,000文字に沖縄が新の日本のモデルになるべきだということを提起いたしました。その論壇は、県振興審議会の名前で出しております。私のその論壇の結びに、すばらしい沖縄が環境のモデル都市になり得るといってお二人の提言があったことから、では沖縄は足元ではどうなんだろうかと。

沖縄では、今10年に一度、沖縄県の観光商工部の産業政策課が「新エネルギービジョ

ン」というのを策定中です。皆さん新聞でもご覧になっていると思います。これは、もともと新エネルギービジョンというビジョンだったんですけども、新エネだけでは語れないということで、沖縄のエネルギーの自給率まで検討しようという「沖縄エネルギービジョン」に名を変えております。

私どもは、この10年計画が年度内に策定されようとしているので、この15ページにはそのへんも包含した形で道しるべを示すべきであるということで、私は前回提起をさせていただきましたが、きょう実は私、産業政策課に寄ってまいりまして、20年度に検討委員会が開かれたり、庁内検討委員会にも入っているんですけども、この道しるべに参考になるような考え方がまとめられているかということで確認して参りましたけれども、各論には及んでいるんですけども、考え方のところが十分整理してない。できてない。よって、本日の会議には参考にならない状況でした。

こちらから私の提案です。本21世紀ビジョンの15ページには、きょう実は知事もおられて、きょうの琉球新報の社説を読んでいた方いると思いますけれども、8月に沖縄で開かれた沖縄地域エネルギー、沖縄温暖化対策推進協議会で、1990年対比2006年度のCO₂の排出量の増加率、16年しかたっていないんですけども、何と70%も増えて日本でトップである。悪い意味でトップである。その次は鳥取県とか、宮城県とかが40%しか伸びてないのに、沖縄は突出して70%に伸びている。そのへんのことがきょうの社説にも述べられております。

知事は、そのへんを改善すべく温暖化対策という意味で、先週、宮古島で会議が開かれてそれにも参加されております。これは、この温暖化の対策、数字をよくするための対策でございます。そういう意味で沖縄はだいぶ脚光を浴びているから、この国際的な環境モデルの都市にということで、私も実は論壇に書いたわけでございますが、この15ページはそういうような道しるべになってないなど、正直残念に思っております。

まずは、ちょっとポイントだけ申し上げます。

現状と課題ということですから、ここのところは世界の話から入ってますよね。現状と課題ですから、この国際的な環境モデル都市として沖縄が目指すために、沖縄の現状はどうかということが書いてない。沖縄の現状はどうかということが書いてないにもかかわらず、どう高めていくかというような書き方になっています。まずは現状をきちっと書いた上で、次の将来像の実現に向けた取り組みの基本方向というのがあるべきですけども、ちょっと現状が書かれなさすぎるからというような感じを受けております。

次に、現状は少しきちっと書いていただくとして、取り組みの基本的方向というのをちよっと具体的に申し上げますが、ここに書かれている内容は、地球温暖化の数値を示す、上の3行は環境政策課が書くような内容であります。次に自然エネルギーのことが書いてますから、エネルギー政策ですから、先ほどの産業政策課が書くような内容です。次に3Rのことを書いてありますから、環境整備課が書くような内容になっています。次もまたさらに自然の話に入ってますから、環境保全課というのがあるんでしょうかね。そういう4つの課がポイントとして書くような内容になっているような気がしていますけれども、その4つの課が連携して書いたような節がない。あくまでも総合部会に参加したメンバーの感覚で書いてあるような気がしております、そのところは前回私が申し上げましたように、10年計画というスパンがあるならば、その考え方のところが20年スパンの我々の今回に入るべきだなという提言でございます。

ぜひ、そのへんのところは先ほど申し上げました4つの課が連携されて、地球温暖化の問題とか、エネルギー政策の問題とか、沖縄の環境保全の問題とかというのは、この1ページにきちっと集約していただければ頭の整理ができるかなと。こう思っております。以上でございます。

○平会長 これは総合部会で議論したものをまとめられたもので、今おっしゃったような各課がどういうことを何年度にどうするというのは、先ほど言いました基本計画、それから年次計画等であるということですが、私よりも事務局、ちょっとお答えいただけますか。

○玉栄委員 詳細の中身という意味ではなくて、考え方、方向性の整理という意味でございますので、誤解のないようにしてください。

○事務局(川上部長) はい。もっともなご意見だと思います。

基本的に、ここに書いてあるものは、これは総合部会でたたいて出しているという形になっていますけれども、その議論の中で各部局にも実は照会をしながらまとめております。今4つの課を挙げられまして、どうも連関がないじゃないかという話がありましたけれども、そのところはもう1回吟味をしながら、ご意見の部分も含めて検討していきたいと思っております。

○仲井眞知事 この点はまさにおっしゃるように、基本的なところがまだ県でうまくつくれておりません。

したがいまして、まず1つは新エネルギーに限らずエネルギービジョンというのをつくるというのは、各地域地域を含めて随分昔からあることはあるんですが、一体沖縄のエ

エネルギー供給自給率というか、これ今ほとんどゼロですから、ただ、ポテンシャルとしてはガスがあるかもしれないとかいろいろ言われております。新エネで言えば光があるかもしれないとか、海がいっぱいだからH₂もあるかもしれないとか、こういう話をよく知っておられると思うんですが、そこを含めて電気エネルギーでいうと沖縄電力が全部石炭と油と天然ガスでやっていますから、これをできれば30年ぐらいかけて半分は新エネルギーでやったらどうかというような考えもあると思うんです。

ですから、少し思い切った計画と目標をつくって、ただ、絶対に必要なのが研究開発なんです。ですから、ここを自らブレークスルー(現状打破)しないと、世界中で誰かがやるのを待っていたのではできないだろうというぐらいありますね。

沖縄本島以外に、宮古・石垣のように5～6万人の人口のところと、もっともっと小さい島々約30に人が住んでいる。ここは非常にコストが高くて、普通の沖縄本島の30倍ぐらいかかって大赤字なわけです。ですから、それもブレークスルーしていくために、よほどの研究開発と切れ味のいい研究者を育てて自らも解決しないとダメだということで、それがない限り将来の小型原子炉でも入ってくるのを待つしかないんですよ。

ですから、そういうある意味で幸いに何十年も先になりそうだから、その間自ら課題を解決していくという姿勢を持って、ヒントはないわけではありませんし、琉球大学の立派な先生方もおられますから。

ですから、そういうものを含めて電気、ガス、それから自動車も含めていろいろなエネルギーを。ただし、これは研究開発の成果を自ら出すという決意を持ってかかれば、20年ぐらいもかければ答えは出てくると思います。そういう形で、今度は低炭素社会などという妙な表現が最近横行しているんですが、それ以前に、何もあれCだけとればいいってもんじゃないと僕は思っているんですが、新しくちょっと腰を据えた計画を含めてやる必要があると思うんです。

ですから、まさにご指摘のとおり、今、関係するところがちょこちょこことなでたと思うんです。おそらくそれだけではとてもだめな部分がありますから、そういうところを含めて、もう1回ここは計画の段階にするか、こういうビジョンの段階でも、もう1つ突っ込んでまとめてみたいと思いますので、ちょっと我々のほうでまだうまく頭の整理ができておりませんが、やろうねと、こういうことですから。

○平会長 どうもありがとうございます。

例えば、私の専門は海洋物理学というほうなんです、海洋物理学の海のエネルギーと

しても上層と下層の温度差を利用して発電をするというのがあるんですが、実はこれも今力を入れているのが佐賀大学なんですが、あそこは立地条件がないんですね。有明海に面しているだけで、深い海もないから冷たい温度もない。それで冬は寒いということなんで、ぜひ沖縄にその研究基盤を持ってこなければいけないんですが、今のところかけ声だけで、ともかく琉球大学の中に。

○仲井眞知事 この話になります、これも一言。これも前にやろうとしたんですが、例えばハワイと沖縄の条件が極めて似ているんですが、唯一違うのは台風ですよ。

○平会長 はい。

○仲井眞知事 あれが毎年十幾つも来ると、一発で構造物が壊れてしまうでしょう。ですから、久米島で温度差発電に取りかかろうとしたことありましたよね。やっぱりこれは構造物としてはすぐぶっ壊されてしまうから、ちょっとこれは研究だけに終わっておくかという面がないわけではありませんね。

○平会長 限界がありますけれど、今、知事が強調されたのはどこかでできるのを待っているというのではダメで。

○仲井眞知事 そうそう。まさにそのとおり。

○平会長 やっぱり沖縄がこうありたいと、自然エネルギーを利用してというならば、それに向かっていかないといけないという。

○仲井眞知事 自分で解決しないと、どこも答えは出してくれないんですよ。我々のほうでまとめますから。

○平会長 よろしくお願ひします。私の海洋温度差もそういう限界があるということですから、言いました。

ほかにいかがでしょうか。

野原さん、お願ひします。

○野原委員 私は、11ページの下の方にあるんですけど、「そのため沖縄の自然と……ゼロエミッションを実現する」という言葉があるんですけども、宮古島市でも今ごみ焼却場をどうするかとか、どこも同じだと思うんですけども、いろいろ問題になっていて、ゼロエミッションというのはごみ焼却場だけの問題ではない。

私は、できればこの言葉を「循環型の社会」に。もっと自給率を上げて宮古島だったらほんの30年、40年前だったら、ほかからそんなにもものが入ってこないでも十分生活できていた。もうちょっと言葉がそういうふうな、それが時代に逆行するということではなく

て、もうちょっと島の中とか、沖縄県の中でものが十分行き渡る、お互いにみんなが消費するような、そういう経済を構築していく方法というのを、もうちょっと大きなグローバルな視点で考えてもいいんじゃないかなど。

これ、今おっしゃっていたみたいに1,000万人観光客がお見えになるのは非常に上等だけれども、ではその方たちが食べる小麦も、米もほとんどみんな外から入っている。そうすると、結局おいでになった方たちが落としたお金の何割かはまた外へ出ていってしまう。何とか島の中できちっとそれがすべて循環するような、そういうシステムをもし20年後とか、50年後とか考えられるのであればぜひ考えてほしいなど。

だから、この言葉を「ゼロエミッション」ではなくて、もうちょっと違う言葉をぜひ模索してほしいなと思いますけど。

○平会長 ありがとうございます。

今のこれでいくとゼロエミッションになるし、先ほどの循環型というか、もっと島の中でやれること。さっき野菜の話もしましたけれども、そのほかの農産物についても自給率を高めていかなければいけないということだと思います。ぜひみんなでこのへんの表現を考えていきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○仲井真知事 事務局というより委員として。これ富川先生にちょっとお願いしたいんですが、沖縄の今の経済の状況をどう認識というか、どういうふう理解しておくかという事で。

確かに、課題とか問題というのは山のようにあるんですが、ウチナービケーンではなくて、この相対的に結構沖縄県というのは、確かに47都道府県でビリの指標もたくさんあるんですけども、そうでない指標も随分出てきて。

私は、知事が個人的なと言って許されるかどうか別ですが、東京だけ例外にしますと、46を15、15、15ぐらいにA、B、Cグループに分けますと、Cグループの真ん中ぐらいにいろいろな意味で来ている感じがあるんですよ。ですから、我々はこれを専門の富川先生にどう理解しているかなんですが、例えば国への依存度ですが、補助金とか交付金と称するものを全部まとめてパーヘッドで沖縄県にきている額は断じて多いかという全然多くないんですよ。今や沖縄よりも多いところは幾つかの県がありまして、15の中の真ん中ぐらいなんです。つまり我々よりもっともっとそういうものをエンジョイしている県が7つ、8つあるんですよ。

そして、あとは、これは例えば税金も国税、地方税合わせていったい沖縄県はどれくらい納めているかってというと、沖縄より納めてない県というのもやっぱりあって、我々は40の手前ぐらいのところにいたりですね。

それで、米軍基地で食べているんじゃないかということをする人がたまに東京、その他にいる。とんでもないと。沖縄の県民所得、去年、一昨年の粗々の計算で208万円とか210万円と言われているんですが、米軍基地にかかわって支出されているお金2,200億円くらいだと言われている。これ全部の所得計算を何回もやったあれでいくと、5%前後なんですよ。5から7だと言われている。210万円近い所得のうちの10万円前後が米軍基地に絡む国の支出という話でして、これ大きい小さいかと言われると、小さくはないけど大きいかねーという感じもあって。

ですから、この沖縄県はある意味でおかげさまでほかの県並になってきまして、ですから、特に復帰して10年、20年近くは結構格差があってどんどんどんそれを埋めるのにいろいろな手当をしていただいてあれで。今現在は、普通の県になってきているんですよ。ですから、我々は不満を言えばかりがないという面もあるし、まだまだ格差的なものとかいろいろあるんですが、この一体僕らはどこにいるかというあたりは一回きちっとしておかないと、えらい格差がありすぎて米軍基地で食べているんじゃないかと自ら思っているような人もないわけではないんで。ただ、この指標上47番目であったり、県民所得なんかどう計算してもいつも47番目ですが、46と47の差ってちょっとしたことでピッと追い抜きかねないあたりなんですよ。

それから失業率も、これ基本的にいろいろな言い方もできるんですが、無論、日本本土、場合によってはアジアでもいいんですが、働きに行けば別にあつという間に下がる範囲でもあるし、ある県と比べると、実は沖縄県が上になったり下になったりして沖縄県ビリでも何でもないんですよ。東京とかちょっと巨大な都会を除きますと、みんなどっこいどっこいというところの中に僕らも入っていつているところがあって、そうするとそういうものを踏まえた上でやりませんと、何かちょっと自分を少し卑下しすぎるというのか、何て言うんですかね。正確にわからないまま言う癖がちょっと我々にありますので、上手にそのあたりも表現できるといいなと実は思っているんですが、よろしくお願いします。

○富川副会長 総合部会の議論を超えているところでもありますので、そのへんは私見も交えて、個人の総合部会の一員として発言させていただきます。

その前段をまとめさせていただくと、出発点の議論がこのビジョンというのは、これま

での振計の総括、課題をもうちょっと明らかにして関係性を保つべきだという議論はありました。

実は、特定課題以外に基本課題として入れるべきではないかということで入れたんですが、これはもう長いということで削られてしまったんですけど。

そういう出発点がまず1つあって、その中で前田委員もおっしゃったように、経済論が弱いというのはおっしゃるとおりで私もそういうふう感じております。

ただ、現実的な経済論が10年スパン、20年スパンで展開できるかということとはとても難しい話で、そのへんは難しいんですが、ただ、知事がおっしゃるように、1つは沖縄の可能性をもうちょっと吟味する必要があるんじゃないかと思います。

断片的な情報ですけど、ちょっと正式なシンクタンクの名前は忘れちゃったけど、シンクタンクでは沖縄の潜在成長力は非常に高いと。これ市町村ごとに出てきておりましたけれども、読谷あたりもベスト30か40ぐらいのところに、3つか4つぐらい読谷以外にも具志川とかあったりしてですね。ただ、これは基本的には人口が多いと。沖縄の人口が1つ要因ではないかというふう考えられています。沖縄は人口が増加していますので、それ以外にも何かあるかとなると、具体的な指標を見る限り、知事がおっしゃるように全部が全部最下位ではないんですが、例えば象徴的な意見として失業率とか、1人当たりの所得を出したんですけど、やっぱり個人的な見解で言わせていただきますと、21世紀ビジョンですから、予見としてのネガティブな要素はしょうがないんですけど、ポジティブなところをもっと探そうと。そこの中で知事がおっしゃるように、人口が増加している。それからソフトパワーも含めて、そういったものをまず集めて、この中に前に申し上げたように発芽するような株を埋め込んでいこうというところに目がいってしまって、多分現実的な課題とかちょっと乖離してしまって、そこに目が届かなかったということは正直申し上げて事実です。

ですから、スタンスとしては知事の提言もありますように、もうちょっと沖縄の可能性というものを吟味して行って、それを発芽するような方向ぐらいまで入れればなと思っていますが。答えにならないかもしれませんが。

おっしゃるように、断片的な情報では、たまに地元の新聞でも出たりしますけれども、潜在成長力は沖縄は非常に高いとか、あれは関数として人口が入っているのということもあると思うんですが、そのへんをもうちょっと研究していきたいと思いますが、しかし、いずれにせよもっと沖縄の可能性をもうちょっと吟味して。そういう意味で、あと時間と

の兼ね合いもありますが、ぜひそれは勉強させていただきたいと。ちょっとお答えにならないかもしれませんが。

○平会長 そうすると、ぜひ資料編にも、今、知事が指摘されたように、1人当たりの政府から出てくるお金というのは島根県が多分、断然、十数年前からトップなので、あるいは最近が高知とかもだんだん増えてきていて、必ずしも沖縄が1位じゃないんですね。ですから、よく言われるように基地があるから補償のためにお金がきているというわけではなくて、国の仕組みの中で、別に沖縄は一番優遇されているわけではない。ただ、そういうものも含めて客観的に人口からいくと何番とか、それからあれでいくと何番とかというようなものは簡単な資料がいくつもありますので、資料の中にPRとして入れていただけると役に立つような気がするんですけど。

○富川副会長 途中でまた発言して恐縮でありますけれども、1つだけ。

今言った資料の件もそうなんですが、県民の声も後で後ろのほうに付けていきたいということ事務局がおっしゃったんですが、実は仲本委員からご指摘があるんですが、確かにこれは3名の意見を3で割ったような文章になってしまって、編集も中間報告をとりあえず入れろということで、本当に恥ずかしいぐらいの文章もあるんですが、文章の多い少ないについては、概略版で何とかできないかというのが1つあります。というのは、これは県民の声をベースにしているわけですが、やはりそこには論理づけが必要じゃないかと。論理づけというのはどこに出しても通用するような論理がないといけないわけですが、それが抜けるとエモーショナルな話になってしまうので、やっぱりそこは補強したいということでついつい文章を長くしてしまったんですが、そのスタンスをぜひご理解していただいて、もちろん削るべきは削っていくわけですが、単に沖縄の島が好きだけじゃなくて、何で沖縄のソフトパワーがすごいかという論理づけと申しますか、自然もそうなんですが、自然というのはどういう概念があるとか、そこはやっぱり若干肉づけして説明しておかないと、それは沖縄の人たちの単なるエモーショナルでしょと言われてたら、ちょっとくやしいところもありまして、そこは若干文章は長くなったんですが、おっしゃるように重複が相当ありまして、これは全くそれについては整理します。言い訳になってしまうんですが、そういうこともあるということだけご理解を賜ればと思います。

○平会長 ほかにございますか。

もし、なければ私から。よく「東洋のジュネーブの役割」ということがよく出てくるんですが、私自身ジュネーブはあまりいいまちだとは思わないんです。ものすごい物価が高い

んですね。ユネスコの支給する旅費だけでは1日暮らせないぐらい夕食も高いんです。それでいて例えば、時計などはみんな向こうでつくっているんですが、現地のほうがはるかに高く、東京の安売り屋のほうが安く買えるとかがあるんです。そのへんはどういうイメージがあるのでしょうか。

○富川副委員長 言葉というのはいろんな多種多様な解釈があるのですが、これは私個人的に提案しましたので、ご説明いたします。

これは単なるシンボリックな言葉であって、沖縄というところはいろんなアジアとの関係性も深いし、戦争の話もあったのですが、もうちょっと話し合いをする場を設定できないかと。これは昔、随分前ですが、普天間跡地のところに国連機関を呼ぶことはできないかという話もあったりして、そういう調整センターでも何でもいいんですが、そういうことを沖縄で設立できれば非常に意味を持つのではないかと。歴史性もありますし、沖縄はある意味で日本であって日本でないファジーな部分がありますから、例えば中国と台湾の話でも沖縄でちょっと考えてみようとか、あるいは北朝鮮との話もできれば、そういう話もありますし。

これは実際に発案した直接のきっかけは、昔、与那国でシンポジウムがありまして、そのときに廈門市長と、花連市長と、町長さんと集まって、向こうは国境が近いからということで議論してシンポジウムも計画しまして、実現の寸前のところで廈門市長が来れないということになってしまったんですが、それも含めて経済的な可能性も含めていろんな紛争も含めて、沖縄というところで議論していただければ有難いし、ちょうどそういう素地があるのではないかとということで、かなり。ジュネーブの物価とか、そういう経済的なところは全く念頭になくて、シンボリックに、いろんな紛争解決の場、緩衝区と申しまししょうか、バッファーとしての位置づけでそういう機能を埋め込めば、交流にもつながるしということで発案しただけであります。

○平会長 ありがとうございます。余計なことを言いました。

国際連盟の本部があったところで、今でも軍縮会議はジュネーブで開かれておりまして、ただ、国連のそういう国際組織というのもすごく持ち出しというか、こちらからいろいろ用意しないとイケなくて、私はバンコクにオフィスを持った国際機関の議長を6年ほどやったことがあるんですが、全部タイの政府が秘書を2人支給することだとか、いろいろなことを要求しまして、もちろん建物と設備はタイ国政府が提供するというものであれしたんですが、そういう面でもし持つならば、十分な覚悟がいるということだと思います。

すみません、仲田先生の前に余計なことを言いました。

○仲田委員 全体にちょっとメモしたところだけ、ば一っと説明させていただきますと、それぞれ目指すべき将来像1～5まであるんですけど、前段がやっぱり重たくて、こういう夢があるんだという内容になっていない、言葉が難しいというふうな印象があります。

先ほど言った、私も個人的には嫌いなんですけれども、「東洋のジュネーブ」とかという表現はぜひ避けてほしいというふうに思っております。

それから、やっぱり文章が練られてなくて、文章になっていないなというところがたくさん感じられました、特に11ページから2行目から後のほうが一番最後に「人を昇華させるエキスが存在する」とか、何かちょっとビジョンにはわかりにくいなというふうな。この文章全体が文章も長くてわかりにくいというふうなことで、ぜひ概略版じゃなくて最初の段階で心をつかまえるような前書きにしないと、後のほうにいきづらくなるんですよ。そういう印象で読みました。したがって、ぜひ縮めてわかりやすい表現にしてほしいと。

わかりにくい表現のもう1つが「ソフトパワー」というのが、アメリカの大学の先生も使っていると言っていましたけれども、これもちょっと個人的にはわかりにくい。できれば使ってほしくない。別の言葉で使ってほしいという気がします。

それから15ページの目標数値を出さないという中で、CO2削減率5割というのは大丈夫かなという感じがしますけれども、これは大丈夫でしょうかということです。

それから、ちょっと私は産業分野なので具体的な将来の取り組みということで23ページあたり、そのへんに観光産業についていろいろ書かれていますけれども、「リゾート」という言葉を使っていますけれども、沖縄県はいろんな映画祭とか音楽祭とかやっているの、そのエンターテインメント的なものもそこに盛り込んでほしいなと思っております。

それから情報通信についてはG I Xが構築されているという話ですが、最近のITの関係者から聞くと、もっと回線は多いほうがいいというふうなことを聞いておりますので、そのへんにさらに力を入れるということも大事ではないかなと思っております。

それから24ページの雇用創出のところは、失業率が全国並みという知事の公約がありますけれども、その意欲が若干見えないなという感じがしますので、もう少し多方面から取り組みの基本方向ですか。多方面から書いたほうがいいんじゃないかなと。雇う側、雇われる側。

○仲井眞県知事 超完全雇用になっているという意味じゃないんですか。

○仲田委員 ぜひ、だからその意欲をこの文章に盛り込んでほしいなというふうに思っ

ております。各分野はいろいろ産業分野は関連していると思うので、ぜひあらゆる方面から書いてほしい。

それからちょっと言葉の問題ですけれども、26ページ、「アジアに隣接する島しょ圏」という、この「圏」を使っていますけれども、別の部署では「島しょ地域」とか使ったり、どういう意味で使っているのかなと。私の個人の理解では沖縄島しょ圏という場合には、離島県という意味で島しょ圏という言葉を使っているのかなと。島しょ産業からなるというのも、全国の中での離島県で、わりとコストも高くかかっているということで、そういう感じからするとこの「圏」じゃなくて、都道府県の「県」かなという気もしますけれども。ちょっとこれはあまり共通理解がない表現かなという気がしています。私の勘違いであればそれでまた説明があればと思っております。

31ページの「情報系高等教育機関」というのは、これは大学院ということでもよろしいんですか。ぜひそのレベルの高等教育機関ということのイメージで理解しておりますので、その向きでぜひご検討お願いしたいと思います。以上でございます。

○平会長 ありがとうございました。

また、とりまとめるときに検討させてください。

○富川副会長 文言とかは先ほど申し上げたとおり、ご指摘のとおりでして、ぜひ修正していきたいと思います。

定義も圏域の「圏」と「県」と議論してきましたので、まだ結論はみていないんですが、これもやっていきたいと。

2点ほどちょっとお答えしておかなくてはいけないと。1つは沖縄の文化の話なんですけど、これもニュアンスで申し上げて、文章は確かにいろんな人の意見を平均してやっていますので、ちょっと整理が必要かということはそのとおりです。ただ、発展というときに、現代社会の人がどうも世の中おかしいと思っていると。このままでいいのかと。強欲主義という象徴的な言葉もありますけど、それも含めてやっぱり沖縄の行くべきところはそういうことも含めて、これまでの振計とかそういう計画にない新しい発想も入れて、みんながおかしいというところはやっぱり入れておいて、さっき申し上げたように、現在、将来においても負の要素はできるだけ消したほうがいいんじゃないかということで、ニュアンスで入れておりますので、これはもちろん表現は確かに問題点あると思います。

あともう1つ、「ソフトパワー」という言葉ですが、これは委員の中でもかなり理解していただいていると思うんですが、発展した国がポスト先進国に行くときに、このソフトパ

ワーというものが非常に大事であるという文献もたくさんありまして、東大の伊藤元重さんも使っているわけで、そのへんはぜひ理解していただいて、これはぜひ使いたいと言いましたので、そのへんはまた必要とあらば後でご説明しますけれども、ぜひご理解ください。

○平会長 定義がやっぱり「ソフトパワー」については、もっとわかりやすく言わないと今のような話は出てくると思います。

ちょっと時間配分を次のところまでいかないといけないので、今度は32ページから将来像の実現に向けた戦略というところからさっとやりまして、これは最後までありますが、この範囲について意見ございますか。

○仲井眞知事 会長、「ソフトパワー」はだれでも今はわかっているんだと思いますがね。僕はむしろ使うべきだと思いますよ。オバマは「スマートパワー」と言い出しているぐらいで、さらにハードとソフトとスマートで、今むしろ、ちょうどいいと思うんですがね。僕はいいと思いますが、念のため。

○平会長 私も不勉強であり認識していません。ありがとうございました。

それではいかがでしょうか。

まだご発言がないのは、桑江さんかな。いかがでしょうか。

○桑江委員 桑江でございます。

先ほど来、ちょっと聞いてきて産業振興の特区と触れながらお話をさせていただきたいなと思います。

もう30年来沖縄に数兆円というお金が入ってきて、よく言われるのは産業が定着しない。いつまでも失業率が高い。大きな産業がこないというふうな話をされます。これを何か大きく変換し、お金が入ってくるものを利用を変えていかないと、今後も同じことが続くのではないかと、こういう論議であります。

沖縄を見たときの優位性というのは、多分、全体的に見て気候であったり、地理的条件であったりと、こういうふうなことだと思うんですね。いわゆるキーストーンというか、そういうことだろうと思います。歴史的に沖縄が大きな地位を得てきたのもそういうことだろうと思うんですね。そういうことで観光であり、あるいはITであり、そういったものが今沖縄に隆盛を持って来ようというふうにしております。

地場産業についてもやはり沖縄の気候であり、物産であり、そういったものが特異性があって認められてきたと、こういうことだろうと思いますね。それでこの沖縄のポテンシ

ヤルをもっと力づけていくことというふうなことになったときに、やはり先ほど来あります、アジアのパワーとの接触、つながりをもっと増やしていくということが私は非常に重要だろうというふうに思っております。それは観光であり、あるいはITとのつながりであり、あるいは今やっている国際物流等々の形成であります。そういったことを中心に進めていってほしいと思います。

ちょっと戻って大変恐縮ですが、環境関連で島しょ県というのがずっと出ました。ゼロエミッションをずーっと進めていながら、なかなか完成できないんですが、沖縄で地域、地域の島しょの中でゼロエミッションをある程度成功させれば、これがいわゆる環境関連産業として、太平洋地域の指導的役割も果たせると、こういうふうにも思っていますので、こうした流れをお願いをしたいというふうに思います。すみません、ちょっとタイミングがずれましたが、私の意見としてそう思います。

○平会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか、ほかに。東さん、お願いいたします。

○東委員 39ページの交通にかかわる部分なんですけれども、ちょっと文言については何ともあれなんですけれども、2030年ということですから、もちろん2本目の滑走路もできているでしょうし、国際線のターミナルと、それから国際線の物流、全日空さんが始めようとしている。そのへんのところも物流の部分なんかも、もう少し具体的な形で入れるといいのかなと思います。

最初の段落の部分、「国内第3位の」という、何位というのがいるかどうかわかりませんが、目指すというのはいいいんですけれども、次の部分は「東アジアの諸都市と」ということで書いているんですが、これがもう2030年の航空輸送能力を考えると、長距離も含めて、なにもアジアということに限定しなくても、おそらくインドネシアやタイと同じように、冬場は北欧とかそういうところからどんどん人がやってくるというようなことになってくると思います。ですから、ここはぜひアジアということのを消していただいて、グローバルスタンダード、または世界標準の空港、またはそういう設備をつくるということでぜひやっていただきたいと思います。それはなぜかというと、2本目の滑走路も基本的にはできるということになりましたけど、これも2,700mでしたかね。現在あるのも3,000mです。それで3,000mではヨーロッパまでジャンボ機は飛ばません。いわゆる最大離陸容量の問題で。ですから我々、今の時点でも民間の旅行会社が国際線の機材をチャーターしてヨーロッパに飛ばそうとしても、ACLという最大離陸重量がありまして、3,000mではヨ

一ロッパ11時間ぐらい超す飛行場は満席で飛ばすことはできません。具体的にはジャンボ機ですと、今、350名乗りを貸しきったとしても、お客さんが250名ぐらいまで、貨物は制限がかかるというような状況で、滑走路の距離というのは非常に今でも実は問題なんですね。ですからそのへんはアジアというふうに限定されると、非常に拡張性が薄くなってしまっているので、そのへんのところは、そこまで詳しく書く必要はないと思うんですが、2030年までには本当はかなり早く快適に10時間ぐらいで地球の反対側から飛んでくるような飛行機も開発されると思いますけど、そのへんのことを見据えたような部分でやっていただければなと思います。以上です。

○平会長 ありがとうございます。今のは検討していただくとして、貴重なご指摘だと思います。

ほかにごありませんでしょうか。

砂川委員いかがですか。催促して申しわけないですけど。

○砂川委員 各委員からいろいろご指摘なり要望なりあったんですが、私も共通しているのは、多分最初に仲本委員からあったような感じがしまして、このページを示して意見とか言えませんが、全体的に、ビジョンというのは20年先のビジョンを今つくろうとしているわけですから、こうありたいと、沖縄県としてはこういう姿・形になりたいというようなものでありますから、文章をたくさん書いてもなかなかわかりにくいものがありますから、先ほど富川先生はダイジェスト版もつくりたいという話がありますから、ぜひそういう方向で、やっぱりひと目で見て沖縄県は将来どういう姿・形になると。確かにこれはもういろいろ分野が広いわけですから、例えば農業分野はこういう姿・形をつくっていきます、観光はこういう姿をつくっていきますというような部分が本当は見えたほうがいいのかなど。仲田さんが指摘していたように、とりわけ産業分野については主たる産業の項目ぐらいは整理していたほうがいいのかなどと思っております。以上です。

○平会長 ありがとうございます。

続いては37ページに鉄道の路線図があって、えっこれを計画しているのかなと思ったら、はるか昔1925年にあったという話なんですね。こういうふうに交通体系、とくにCO2を減らすということからいくと、軌道交通が必要だということですが、このへんについて皆さんご意見ございますか。お願いします。

○仲本委員 私は建設業協会の理事という名前で来てはいるんですけども、実は経済同友会のほうも東さんと同じように常任幹事をしていまして、私は道州制の委員長という

大役も仰せつかっております。

今日、経済同友会の地域活性化委員会での21世紀ビジョンのほうにぜひとも入れていただきたいということで、今、提言報告書をまとめている最中でございます、近々、仲井眞知事への手渡しという形をする予定もございます。

○**仲井眞知事** 会長のところにやって。(笑)

○**仲本委員** 紹介だけさせていただくと、L R T (次世代型路面電車)ですね。経済同友会の経済活性化委員会での1年、2年ずっと新交通システムL R Tの勉強をしまして、ぜひともこのビジョンの中にL R Tの内容なり、柱という形でぜひ入れていただきたいという話もしておりましたので、同友会の代弁ということで一言付け加えさせていただきます。以上です。

○**平会長** 個々の自動車など制御するのは大変で、温室効果ガスの低減というのは非常に難しいわけですが、発電所規模になると対策はとりやすいということがあって、同じことであれば鉄道のほうがエネルギーがということだと思います。鉄道だけではございませんが。

○**仲本委員** 鉄道がぜひいると。自動車とかそういう交通とはまた新たな視点で、昔の軽便鉄道を念頭に置いて、南北、横を走るようなそういう鉄道、公共交通機関が必要だというような提言というふうに理解しております。

○**平会長** はい、お願いします。

○**富川副会長** 統括監、これどこかに入っていたと思うんですけど、文章から探せないんですが、北部と那覇の縦断的なL R T (次世代型路面電車)みたいな軌道をつくるとかですね。L R Tも議論のときに入っていたんですが、今、にわかには探せないんですが。これは議論しておりまして、ぜひ今のご発言のような趣旨のことは盛り込んでいると思いますけど、統括菅。

○**事務局(平良統括官)** 37ページにも書いてありますけれども、それ以外のところでも書いてありますけれども、鉄道とかL R Tとかいろいろありますので、「軌道系の新たな公共交通システム」ということで抱合していますので。そういうことです。

○**平会長** では玉栄さん。

○**玉栄委員** きょうの中間まとめのことで仲本委員から提言があって紙が出ております。要特定課題のところをもう少し書くべきじゃないかとかいうことがあるのと、最後のところの目指すべき将来像というものをもう少し詳細に書くとなると、40ページ、50ページに

なる可能性があるわけですが、この辺を本日、意見集約したほうが良いと思うんです。34ページに「県土構造の概念図」というのがあります。その概念図というのは大変重要ですけれども、例えば北部圏域のところ「主な機能の例示」と書いて、3つありますよね。先島の宮古圏のところ例示とあって1つしか書いてないんじゃないですか。けれどもその前の33ページの中南部都市圏とか、それぞれのところの文言というのが、本来この34ページは例示じゃなくて、頭の整理をしていただくために概念図と入れるなら、その項目に沿って33ページは書いたほうが良いような気がしますけれども、単なる例示なのか、そのへんとの整合はどうしたほうがよろしいのでしょうか。

○平会長 はい、お願いします。

○富川副会長 ご指摘のところもあるわけですが、基本的にはさっき申し上げたように、とにかく大事なものは入れようということで、まだ半ばでありますので、文章の重複も含めて、構成も含めて十分に検討しておりません。これからご指摘を受けて検討に入ります。ただ、このフォームは国のビジョンを様式は取り入れています。私も前に個人的に指摘したのですが、様式はできれば国と違ったものがほしかったんですけども、これは様式はこれでいいでしょう。ただ中身は沖縄のものを入れ込みましょうという形で、これは国の構成・様式に沿っております。中身はもちろん違います。

ですから、どこまで入れるかということについては問題もありますし、ページも国のものは確か32ページ前後だと思うんですけど、私はページ数はあまり考えてないで、まずはいろんな意見を出しておいて、後で絞っていく。文章というのは絞っていけば非常に凛々しい文章になりますので、その作業はまだなんですよ。

場合によっては、もっとわかりやすくというのであれば、部長とも相談して概要版で一目でわかるような、沖縄がいくべき方向の表示の仕方はあるんじゃないかと。ここはまた議論を重ねていかないといけないわけですが、あまり文章が短くなると、各人各様に解釈が違ってくるわけです。さっき申し上げたように、県民の意見の中に論理的に説明しなければユニバーサルに発信できないと。これは沖縄だけでしょうと言われたら特に困るわけですし、そのへんの兼ね合いがあります。

ですからまとめ方については、また次回この審議会で報告しますので、ページも含めて検討させていただきたいというふうに思います。

ですから具体的に図表とかも正直申し上げてまだ吟味してない状況ですし、私個人的にもここはどうかというのがありますけど、ここではもちろん出さないようにしますけど。

もうちょっとまとめて、玉栄委員、おっしゃるように、図と文章の関係等々も含めて調整させていただきます。これは宿題とさせていただければ、次回また提示しますので、そのときにまだまだというのであれば、また、忌憚のないご意見を賜り、また、修正していきたいと思います。すみませんが、そういうことで。

○東委員 先ほどの経済同友会の部分は、私も担当ではないんですけども、LRT至上主義ではなくて、結ぶ結節点の問題で高速鉄道がよかったり、または都市部はLRTだったりというのを勉強会をしていますので、それをぜひ見ていただきたいなと思います。

それから、もう1つなんですけれども、これも同友会でも何度か港湾のことについてやっているんですけども、ちょっと私も見落としていたんですけど、39ページの海上交通の中に国際線旅客バースはあるんですけど、旅客ターミナルが言葉としては落ちていますね。ですからバースは若狭に1つできるでしょうけれども、まだボーディングブリッジが付いている旅客ターミナルビルというのは石垣に1個あるだけということになっていますから、ですから、これは世界標準の受け入れができる国際線旅客ターミナルというのは、ぜひ入れていただきたいなというふうに思います。

本当であれば、若狭で、この旅客船ターミナルビルにボーディングブリッジに乗ったら、そのまま屋根付き動く歩道で県庁前ぐらまで、雨に濡れずにバスにも乗らずに来られるというぐらいただったらもっといいんですけどね。これは意見です。

○平会長 これは観光という戦略の上でですね。東京港には今のようない国際旅客船は入れませんので、沖縄のほうがその上をいくことになります。

いかがでしょうか。

私は憎まれ口で、しかもあまり考えないで言いますけれど、離島の振興というのでこれは35ページのほうに離島の教育、保健、医療の課題が書いてあります。例えばこの中で大学側からもいろいろ話したんですが、例えば教育で高等学校以上の教育が離島におけるかどうか。それから、診療所と病院等の医療なんですが、沖縄には人口は100人未満の小さい島もたくさんあって、そういうところでいったいどういうふうに住んでいけばいいのかというのを、理想的にはもちろんお医者さんがたとえ50人の住民にでもついてくれればいいんですが、それは非常に難しいだろうと思います。ですから、そういう議論も少しこれから県土のあり方というか、利用の仕方というのも議論すべき点だと思います。もちろんそれぞれの離島に非常に貴重な歴史と芸能とか、文化があることは重々承知しておりますが、ほかにいかがでしょうか。

実は休憩時間が5分あったのを飛ばしてしまっていて、そろそろまとめの時間になっているんですけど。

○仲井眞知事 これ一番最後のところは「戦略」という言葉を使っているけど、これは圏域別の何かであって、ビジョンを実現する戦略かしら。地域別なんかじゃない？ 僕は戦略という言葉は使えるかというのがちょっと前から気になるんだけどね。ビジョンを実現するための地域別の何かなわけ？ というより、何で地域で分けるのかわからないところがある。

○事務局(川上部長) これは元々の話、県土構造の再編と各圏域の方向性のところで、今、圏域別というふうなものを概念図にあわせて書くべきかという話をしていると思うんですけども、元々ポイントは県土構造の再編、これはどういうことでそう書いているかといいますと、今後の沖縄というものを考えていくときに、沖縄特有の課題というのは、米軍再編で嘉手納より南の米軍基地があるんですね。これは1,000haから1,500ha。これだけの膨大な土地が返ってくる。一方で、中南部都市圏というのはどういうところかというところ、面積は大体470平方キロメートルですね。人口110万です。それは日本の政令指定都市の中でも概ね中位ぐらいのすごく過密なところであるわけです。そういう意味では、中南部都市圏そのものが戦後、基地を避けるような形で都市形成が行われてきている。それを膨大な土地が返ってくる時に、やはりそれは都市骨格の再編であるし、県土構造の再編であると。そういうふうな意味合いで使っているわけです。そういう形で中南部都市圏というふうなもので整備をされていくその過程の中において北部との兼ね合い、それから宮古・八重山との兼ね合い、そういうものが出てくるだろうと。そういうふうな意味合いでこれは整理されているわけです。そういう意味では、これはまさに「戦略」であるわけですね。

今後、ああいう過密な地域で、最も巨大な開発空間として現われてくるだろうと。それを「戦略」として位置づけ、さらに「県土構造の再編」というふうな名称で位置づけたということですよ。

それからあと、離島というふうなものもどういう位置づけでこれをやるのか。先ほどいくつか冒頭でご意見ございました。離島というのはお荷物ではなくて、これはもっと積極的な評価があるんじゃないかと。実はそういう位置づけでこれを整理をしているわけです。離島のもつ意味合いというのは2つあるだろうと。冒頭に議論がありましたけれども、1つは広大な海域の中、人々が住む島々がある。そこにおいて国土の保全とか、それから海

域の保全、それから海洋資源の保全、そういうふうなものが1つ国家的な利益としてある。

もう1つは様々な島々に人々が住んで、固有の伝統文化、歴史、それが非常に強烈な観光資源としてあるだろうと。そういうふうな意味合いです。そういう意味では県としての立場からもっと力を入れるべきだし、国としての立場からも入れる。そういう意味では、ここもやはり戦略的な視点で考えていかないといけないと。

現に今、観光客は600万人というふうに言われているわけですがけれども、この離島の入客は大体290万人といわれているわけです。多少重複があるにしろ、沖縄に来る観光客の何割かは離島へ行く。そういう意味では離島そのものがもうすでに観光資源としてかなり役立っている。そういうことを考えるのであれば、トータルとしてやはり離島も戦略として考えていかなければいけない。そういうふうな意味合いで、この中に入れたということでは。

あとは当然、離島は島しょ県ですから、交通基盤、それから情報基盤はどうあるべきかというふうな3つの整理をやります。これがそれで十分なのか、そういうものを考えたらいいのかどうか。そこはやはり審議会の中で議論していただきたいなと思いますけれども、また、それに追加して産業だとか、ほかもあるかもしれない。そういうふうな意味合いです。この中身は元々あるというふうなことをご説明したいと思います。

○仲井眞知事　そうするとこれから20年の中で戦略的な何かというのは、返還されるであろう基地の再利用というか、利活用というものがかなり大きなウエートを占めるだろうと、そういう意味。

そして島々についてまた改めて何かの取り組みが必要であるし、共通のものとしては公共交通システムがいるだろうと、こういうこと？

○事務局(川上部長)　これが1つの切り口として置いているわけです。もちろんそれ以外に、復帰後40年間の産業振興というものを考えてきたときに、リゾートが90年代に1つ立ち上がっている。2000年に入るとITが立ち上がってきた。次、その第3、第4の産業というものがあるのだろうと思います。そのへんも含めてそれは議論としてあるんでしょうけれども、そのことを戦略として位置づけていくかどうか。そこはぜひ審議会の中で、きょういろいろ議論は出ておりましたけれども、そういう形でやっていただきたいな思っております。

○仲井眞知事　総合部会でまた練ってみてください。何かちょっと足りないような気がするな。

○平会長 砂川さん、どうぞ。

○砂川委員 3ページの図で、ビジョンがあって、基本計画とか実施計画。いわゆる基本計画は戦略なんですよね。戦術的なものが実施計画。そうなるこのビジョンに本当に一部の戦略だけ掲げていいのかなというのは、先ほど玉栄さんがおっしゃったとおりだと思うんです。だから「戦略」という言葉は正しいかと、ここの部分に使うべきかどうかというのはやっぱり、ビジョン・戦略・戦術。戦略というのは基本計画だから、何か整理が必要じゃないかと思えますけどね。

○事務局(川上部長) ちょっと事務局としての説明だけをさせていただきます。

先ほどの冒頭一番最初にビジョンとこの計画の説明をいたしました。ビジョンは県民のありたい姿、そしてその課題と基本構想という話をしましたけれども、ただ、そのビジョンと計画の間というのは、極めて微妙なものでして、どこまで施策的におろしていくビジョンなのか。どこまでが計画の中でそのビジョンに取り組む、このへんはなかなか微妙なところがあるわけですが、そういう意味では、とりあえずは上位に置きながら、今後重点的にやるべきものは戦略として位置づけてもいいのではないかと。それは総合部会の中で1つの理解だったと思うんですけれども、そういうふうな意味合いにおいて3つほど挙げてきていると。そういうふうな意味です。

○富川副会長 これに関してましては、総合部会で議論があったことをご報告します。

圏域を分けるときに、従前のものでもよろしかろうということだったんですが、おっしゃるように「戦略」と使うかどうかは勉強して決めていきたいと思うんですけど、ただ言えることは特色づけ、北部圏域、中南部圏域、宮古・八重山圏域となるときに、こういう議論が出たんです。つまり観光客が来るときにみんな離島や北部に行くと。それは基本的にはみんな補完関係だと。宿は那覇に泊まったりしても、また北部行って帰ってくる。これは北部に人が行っているということは、圏域を分けたにしても経済の中身としては一体でとらえるべきだ。補完関係だと。圏域ということは別々にやっているんじゃないかと、基本は産業でもそういうふうに本格的には補完関係であって、それぞれの特色を生かすというふうな意味での分けだというふうに議論のニュアンスとして私は受け止めました。ただ、用語の使い方に関しましてはもうちょっと勉強させていただきたいと思えます。

○平会長 どうぞ、仲田さん。

○仲田委員 知事の疑問もよく考えたら私も疑問で、3ページのまとめ方で目指すべき将来像で大体まとめられているんですね。将来像に向けた戦略となると、それを束ねたも

っと大きなスローガンというんですか、そんなイメージでいくと、「交通通信ネットワーク」は相当食べ慣れていてわかるので、もうちょっと制度的なというんですか、はっきり言うと一国二制度的なとかいう、何かもうちょっと東にしたような方向性が戦略かなど。言葉の使い方じゃなくてまとめ方として、今まで個別の1～5まで各論みたいなのを言っているの、どこでまとめてちょっと大きい話をするかなど。交通通信ネットワークというのは全部にかかわってくるので、大きな根幹なので、それは構わないと思いますけど。まとめ方じゃないかなど。

さらに、県土構造再編、各圏域とか離島の振興、これはこれでやっぱり外すことはできない分野なので、置くところは別にして、ちょっとまとめ方のところはやっぱり違うんじゃないかなという気がします。もうちょっと、私の感じではもっと大きな制度的なものというのは、将来ぜひ国内の同じ制度じゃなくてということが必要になるのではないかとこのように考えているので、この分野はどこかに表現はほしいなという気がします。以上です。

○平会長 ありがとうございます。

そろそろこの議長はやめにしたと思うんです。ぜひという方はいらっしゃいますか。

それでは、本日はどうもありがとうございます。いえ、会が終わるわけではないです。今後の進め方について、後は事務局のほうにお願いしたいということで。どうもご協力ありがとうございました。

○事務局(川上部長) 事務局のほうからの提案ですけれども、当初、審議会はあと1回というふうな予定をしておりますけれども、きょうもいろいろと議論が出ております。それからまた外部的な環境の整備も含めて様々な動きがある中で、もう少しじっくりと20年後のビジョン、先生方に議論していただければというふうなこともございまして、あと2回、合計3回というふうな形でいかがでしょうかということの提案を申し上げたいと思います。

○平会長 これも私が議長でしょうか。

反対の方、いらっしゃいますか。今日議論してもまだまだたくさんあるわけで。よろしいですか。

(異議なし)

それではご協力お願いいたします。

○事務局(川上部長) それから、あと1点ですけれども、整理の仕方ですけれども、と

りまとめ部会、事務局一緒に整理をしていくことができましたけれども、あと、いろんなご意見をどんなふうに整理をしていくのか。この審議会の付則の中では、審議会に総合部会の委員が出席をして意見を述べてもらうということもできるとなっていますので、整理の仕方として、事務局のほうでここの意見を引き取って整理をするか。今、総合部会に戻すというふうな会長のお話もあったんですが、そのへんのところを少し決めていただければと思います。

○平会長 ここで決断するわけですか。

○事務局(川上部長) はい。

○平会長 今のご意見は2つあって、1つは当初いただいた予定表だと、まだ9月と10月に総合部会があることになっていたのですが、そうではなくて、もうここまできたので、この審議会で最終案にもっていこうと。必要な場合には、ぜひ総合部会の、もちろん富川部会長は全体の副会長でもありますので、それ以外の方、東さんもそうですね。何人もおられますが、そういう形でやっていきたいということですが、それについてはいかがですか。一番大きな問題は富川さんですね。いかがですか。

○富川副会長 今、私の理解不足かもしれないんですけど、総合部会もこれで終わりということですか。

○事務局(川上部長) 総合部会は基本的にはもう中間とりまとめを出すところまでです。当初は、審議会からのそういう役割で、そこまでだったと思うんですけども、今、中間とりまとめをやって、また、審議会で議論したのをまた戻してやるか、そのところは少しご相談をして。

○富川副会長 総合部会の部会長としての立場からですと、何度も言うように、これまでの議論の重ね方がやっぱり不十分なんですよ。今回も相当徹夜をして2人か3人ぐらいで前文だけ直したんですよ。あと、みんなこれからということで期待して待っていますので、せっかくこういうご意見をたくさん賜りましたので、もう1回総合部会に出していただいて、先ほど約束したように整理して出して、それでまただめだったらいいんですけど、もうここに出す案というのは、今回は中間ですが、かなりまとまった案を出さないと、まとめることはかなり厳しいと思うんですけど。できれば総合部会をあと何回かさせていただいて、きょうあったたくさんのご指摘も含めて、体裁も含めて、もうちょっと練り直していただければ有難いと思います。個人的にもまだ議論を尽くしてないところもあるというのがあるものですから、ぜひそういう形でさせていただければ有難いと思うんですが。

○仲井眞知事　素晴らしいんじゃないですか。普通はもうやめたと。非常に結構なことで。

○事務局(川上部長)　そういうことがあれば、事務局としては特に異論はないです。

○平会長　当初いただいた予定表では、あと2回ぐらいはやることになっていたんですけども。では、そういうわけで。もう実は11月には知事に答申を出さなければいけないものですから。

○仲井眞知事　もう少し後でもいいですよ。

○事務局(川上部長)　では総合部会を2回やって、それから審議会という運びにするというようなことでよろしいでしょうか。

○富川副会長　そのへんはちょっと打ち合わせをしながら。もう一度少なくとも総合部会に戻していただいて、各委員の意見も聞いて、きょうの意見も踏まえて、もうちょっと整理させていただければと思います。

○事務局(川上部長)　わかりました。

○平会長　よろしく願いいたします。

本日はご多忙のところ、特に仲井眞知事にはずっと出席していただいて、本当に感謝しております。

○仲井眞知事　委員になって。

○平会長　知事からに委員は任命できませんので。

委員の皆さん、ありがとうございました。では、これで終わりにいたします。

○仲井眞知事　よろしく願いいたします。